

TESK ライブラリー 10  
2015年3月

# 大学共創プロジェクト 2014 報告書

金 沢 大 学 大学教育開発・支援センター  
富 山 大 学 大学教育支援センター  
福 井 大 学 高等教育推進センター  
北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター  
林 透・河島 広幸 編



# 目次

<b>I</b>	はじめに .....	5
	大学共創プロジェクト 2014 メンバー一覧 .....	6
<b>II</b>	活動報告	
	北陸地区国立大学連携プロジェクト（大学共創プロジェクト）	
	「大学間連携による人材育成プログラムの共創」の事業計画について .....	9
	大学共創プロジェクトの可視化	
	（ポートフォリオ作成及びKJ法図解） .....	10
<b>III</b>	大学共創フォーラム 2014「みんなで大学共創について語ろう！」	
	開会の挨拶・趣旨説明 .....	21
	<b>第一部</b> 話題提供	
	「学生FDスタッフAC燦 presents 大学共創の未来への軌跡」 .....	22
	雨宮 ゆり（京都産業大学 学長室・教育支援研究開発センター職員）	
	徳田 義貴（京都産業大学 経営学部会計ファイナンス学科3年、学生FDスタッフAC燦代表）	
	<b>第二部</b> グループワーク①【ワールドカフェ in Kanazawa】	
	「大学共創って何だろう？」 .....	31
	グループワーク②【未来新聞づくり】	
	「大学共創の未来とは？」 .....	35
	クロージング・閉会の挨拶 .....	42
	■資料	
	「学生FDスタッフAC燦 presents 大学共創の未来への軌跡」（雨宮ゆり・徳田義貴）	
	「大学共創フォーラム 2014 概要資料」（林 透・河島広幸）	
	「大学共創の軌跡（キセキ） 参考資料」（河島広幸）	
	「自己紹介シート」「未来新聞（様式）」	
	「グループワーク発表『未来新聞』（参加者一同）」	
	■アンケート調査結果	
<b>IV</b>	おわりに	
	大学共創の宣言文 .....	73
	編集後記 .....	74



I

---

はじめに



# はじめに

北陸先端科学技術大学院大学

大学院教育イニシアティブセンター客員准教授

林 透

平成 23～24 年度に、北陸地区国立 4 大学の教員・職員・学生による大学共創プロジェクトチームを組織し、大学組織力向上のための共創プログラムの開発に向けた取組を進めてきた。この実績を発展させ、大学間連携による人材育成プログラムの共創を目指すものである。多様化した時代を生き抜く人材を養成する大学としての使命と財政困難に耐えられる効率的な大学経営を果たすには、大学の教育研究資源を提供する立場にある教員と職員が各々の力量を高めるだけではなく、教員・職員・学生が共に創り上げる組織力が重要なファクターである。北陸という地域性に根差した組織風土に係る共通理解に立てば、北陸地区国立 4 大学が共同で大学組織力向上のための共創プログラムを研究開発することは、一大学だけでなく、北陸地域全体の大学運営や組織風土の底上げに確実に結びつくものと考えられる。また、本取組は、北陸地区の国立大学間の人と人とのつながりを密にし、大学間ネットワークそのものの体力を強化する効果が期待される。

平成 26 年度では、前年度の実績を踏まえながら、計 3 回の研究会を開催し、教員・職員・学生による共創の場づくりを目的とした大学共創フォーラムの企画のほか、プロジェクトメンバーによるポートフォリオ作成や KJ 法図解に取り組み、「大学共創」というコンセプトへの理解を深めることに焦点を当てた。その成果として、平成 26 年 12 月 13 日(土)に、金沢市内において、北陸 3 県の大学関係者を中心に 50 名以上を集め、大学共創フォーラム 2014「みんなで大学共創について語ろう！」を開催した。京都産業大学職員 雨宮ゆり氏と学生 FD グループ代表 徳田義貴氏による話題提供に加え、教員・職員・学生・市民によるワールドカフェ・未来新聞づくりを通して、「大学共創とは何か」「大学共創の未来」について対話し、全体発表を通して共有と理解を深めた。

近年、共創というコンセプトは全国各地で取り上げられるようになり、高等教育業界でも、今年度のフォーラムでお招きした京都産業大学「燦 presents『京産共創』プロジェクト」や大学マネジメント研究会（会長：本間政雄 学校法人梅光学院理事長（元 京都大学理事・副学長））「共創工房」などの取組が行われている。大学を取り巻く環境が多様化、複雑化する中で、職域を超えて対話・創造する柔軟性と積極性の表れである。

本プロジェクトでは、これまで力点をおいてきたインプット要素（共創プログラムの設計や“場”の提供）に終始することなく、波及効果を高めながら、共創プログラムにより育成される能力を特定するアウトカム要素を重視した取組を進めたいと考えている。

# 大学共創プロジェクト 2014 メンバー一覧

平成 25～26 年度北陸地区国立大学学術研究連携支援事業

研究グループ名：「大学間連携による人材育成プログラムの共創」

## ●金沢大学

大学教育開発・支援センター副センター長・教授	青野 透
大学教育開発・支援センター教授	西山 宣昭
(研究協力者) 学生部学務課教務係長	作田 浩一
(学生委員) 人間社会環境研究科人文学専攻博士前期課程 2 年	新堀 文章
(学生委員) 人間社会学域人文学類 3 年	大津 諒

## ●富山大学

大学教育支援センター副センター長 (人文学部教授)	佐藤 裕
大学教育支援センター教授	橋本 勝
(研究協力者) 学務部学務課学務企画チーム主任	横山 雅彦
(研究協力者) 学務部学務課学務企画チーム事務職員	塩沢 直也
(学生委員) 人文学部 3 年	藤田 昂平
(学生委員) 理学部 2 年	軽尾 浩晃

## ●福井大学

高等教育推進センター長 (理事・副学長)	寺岡 英男
高等教育推進センター (工学部教授)	飛田 英孝
(研究協力者) 学務部教務課教務企画係長	松原 弘尚
(学生委員) 工学研究科材料開発工学専攻修士課程 1 年	中桐 正明
(学生委員) 教育地域科学部 4 年	大木 怜

## ●北陸先端科学技術大学院大学

大学院教育イニシアティブセンター准教授	長谷川 忍
大学院教育イニシアティブセンター客員准教授	林 透
(学生委員) 情報科学研究科情報科学専攻博士後期課程 1 年	吉良 元
(研究協力者) 知識科学研究科博士前期課程修了者	河島 広幸



# II

---

## 活動報告



## 北陸地区4大学プロジェクト（大学共創プロジェクト） 平成26年度活動計画

申請書テーマ：「大学間連携による人材育成プログラムの共創」

### 【活動方針案】

共創プログラムの最大の目的は、参加する教員・職員・学生の能力開発・人材育成に貢献することにある。これまで開発してきたアクションリサーチや知識創造技法によるグループワークは、大学構成員間の共通意識を高めるだけでなく、参加者個々に対する経験学習の機会として重要な要素を備えている。

平成25～26年度の2年間では、これまで力点をおいてきたインプット要素（共創プログラムの設計や“場”の提供）に終始せず、波及効果を高めながら、共創プログラムにより育成される能力を特定するアウトカム要素を重視した取組を進める。2年プロジェクトの初年度である平成25年度では、他大学調査や成果発表を行うことを通して、共創プログラムの汎用性を確認することができた。平成26年度では、共創プログラムによる人材育成の具体的な効果に関する検証等に取り組む予定である。

### （1）大学共創プロジェクトの可視化（ポートフォリオ作成及びKJ法図解）

大学共創プロジェクト自体が4年目を迎え、かつ、メンバーについても複数年参画している方が多数を占める状況を鑑み、今年度においては、メンバー個人の動機付けや振り返りに焦点を当てる。研究会及びフォーラム開催時に、各メンバーが「大学共創ポートフォリオ」を作成し、最終的にプロジェクト全体での共有・振り返りに資する。

また、KJ法図解を行い、本プロジェクトの可視化に取り組み、達成度検証や課題抽出を行う。

### （2）大学共創フォーラム2014企画

テーマ：「みんなで大学共創について語ろう！ － 共創ってなんだろう －（仮題）」

趣 旨：教員・職員・学生によって形成される大学組織では、各構成員がつながりあいながら大学生活の日常が営まれている。過去2年間の大学共創フォーラムの企画実践を通して、改めて、大学における共創とは何なのかについて、参加者みんなまで対話し、具体的なイメージについて共有してみたい。

主 催：大学共創プロジェクト

共 催：大学コンソーシアム石川、大学行政管理学会中部・北陸地区研究会（予定）

日 時：昨年度同様、12月に開催予定。

場 所：金沢学生のまち市民交流館

対 象：大学教職員、大学生・大学院生、一般の方

定 員：40～50名程度

構成案：基調講演（人間関係研究を専門とした外部講師）

グループワーク

全体発表・総括

### （3）大学教育学会での成果発表

平成26年度の事業成果を披露するとともに、フロアーとの情報交流を行い、新たな知見を得る。

## 大学共創プロジェクトの可視化（ポートフォリオ作成及びKJ法図解）

主旨：本年度の「大学共創プロジェクト」では、年間を通した統一テーマとして「私にとって共創とは何か？」を設定する。さらに、メンバーには、「大学共創プロジェクトが『私の共創』に与えた影響」を第1回目の研究会から考えて頂き、フォーラムを経て最後の研究会に至るまでにどのように変化をしていったか（あるいは変化がなかったか）を可視化（作品化）する。

何を可視化するか：

1. 本プロジェクトへの参画（意識）の変化を可視化する。
2. 大学に対する想い（意識）の変化を可視化する。
3. 共創の理解（意識）の変化を可視化する。

大学共創ポートフォリオ（作品1）【別添様式1～3参照】

1. 「大学共創ポートフォリオ」

毎回の研究会の度に所定の用紙を配布する。当用紙は、最終的に「大学共創ポートフォリオ」としてひとまとまりの作品とする。ポートフォリオを作成することで、自身の大学共創のプロセスが見える化し、適切な振り返りを行うことで本プロジェクトの意義や課題を明らかにする。

KJ法による意識の見える化（作品2）【別添参照】

1. ラベルの作成

毎回の研究会の終了時に「本日の研究会で最も強く感じたこと」を小さなラベルに記入する。ラベルへの記入は、簡潔に一文でまとめる。「感じたこと」は「気づき」や「疑問」あるいは、「提案」といったことが考えられるが、率直かつ自由に書くこととする。最後に毎回分のラベルを回収して、KJ法で図解を作成する。

2. KJ法図解の作成

図解の作成は、河島が作成する。本企画書2ページ目に掲載している図1のように、KJ法の方法に則り図解を作成する。本図解は、大学共創プロジェクト全体としてメンバーがどのようなことを感じ、そしてそれらがどのように変化していったかを見る化することを目的としている。本プロジェクトの活動を通してメンバーが感じてきたこと（ラベル）をもとに、図解のテーマを「大学共創プロジェクトが『私の共創』に与えた影響」とし、そのテーマに答える図解を作成する。

ふたつの作品を作成する目的：

ふたつの作品は、それぞれ個人と全体の質的データである。メンバーの意識を可視化して、質的データをもとに大学共創プロジェクトの効果を明らかにする目的がある。

様式1  
開始時に配布・記入

# 大学共創ポートフォリオ（第1回）

所属・氏名 \_\_\_\_\_

【大学共創について、どのようなイメージを持っていますか。絵や図で描いてみてください。】

# 大学共創ポートフォリオ（第1回）

所属・氏名 \_\_\_\_\_

【大学共創について考えていることを書いてみてください。】

様式3

終了時に配布・記入

# 大学共創ポートフォリオ（第1回）

所属・氏名 \_\_\_\_\_

【本日の研究会を通して、大学共創について、新たに気づいたことや考えたことを書いてみてください。】

【本日の研究会を通して、大学共創について、疑問に感じたこと、分からないことを書いてください。】

## 大学共創プロジェクト KJ 法図解解説

テーマ	: 「大学共創プロジェクトを通して最も強く感じたこと。」
元データ (ラベル) 数	: 64 枚
最終項目数	: 8 項目
作成者	: 河島広幸
作成日	: 2015 年 3 月 16 日
作成場所	: 山口大学

### 【解説】

テーマ: 「大学共創プロジェクトを通して最も強く感じたこと。」に基づき、大学共創プロジェクトメンバーから集めたデータ (ラベル) を KJ 法に則り図解を作成した。最終的な項目は、次の 8 項目である。

- メンバー間の“違い”が共創の強みであり、得るものが大きい。
- 大学共創には多くの課題がある。
- 統一的な大学共創の理解と方向性を見出すのは難しい。
- メンバー同士の深い関係が重要である。
- 横・斜めの連携。
- 大学共創の要は人財である。
- 楽しい祭り (破壊的創造) が進んでゆく。
- 適切なりフレクション、フィードバックによって大学共創の可能性がさらに広がる。

以上の 8 項目の関係性を考慮しながら作成した図解に基づきまとめる。

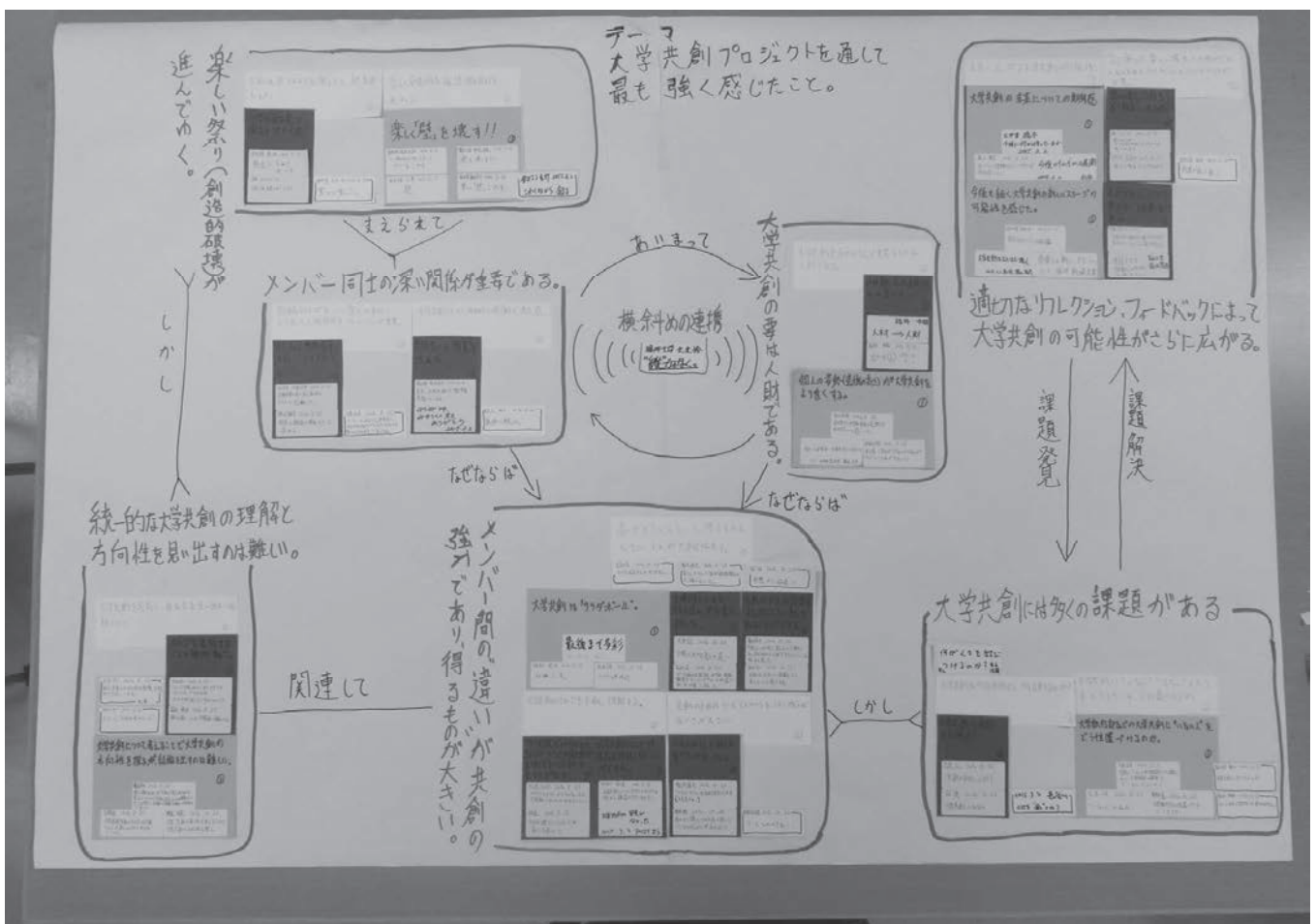
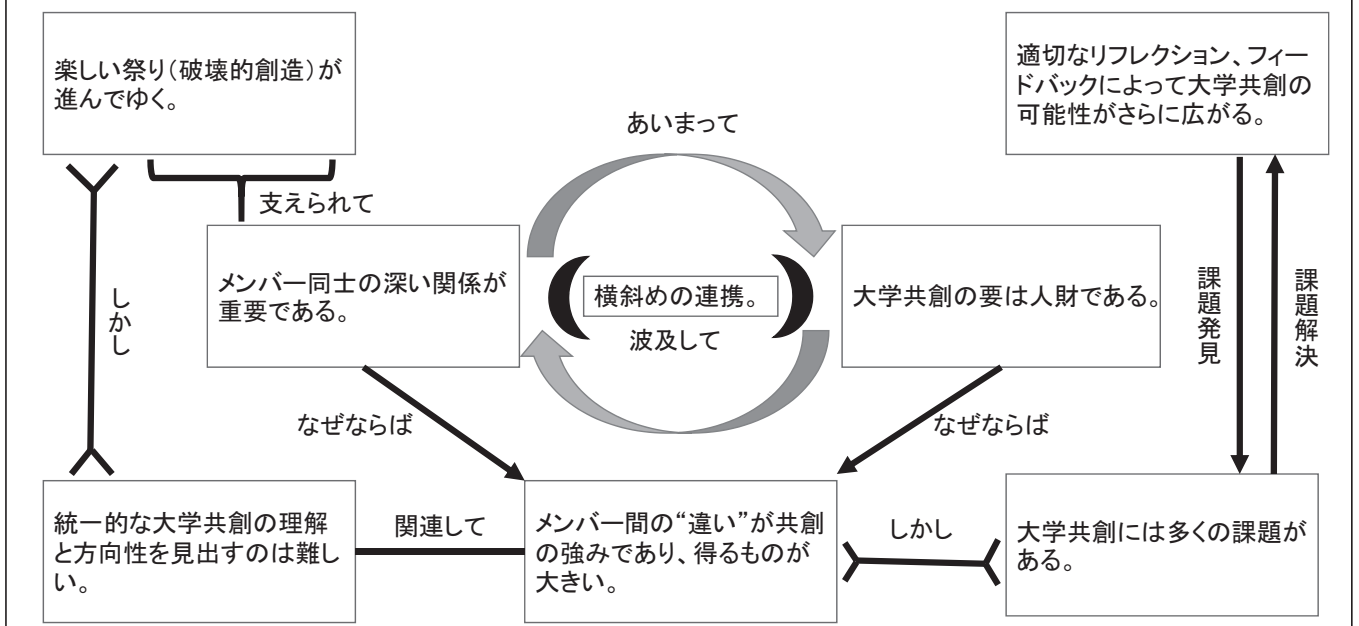
大学共創プロジェクトは、教員・職員・学生での混合チームであり、立場の違いがあるからこそ、得るものが大きく、それが共創の強みであることが感じられている。しかし、得るものがあっても大学共創には多くの課題があることが感じられている。また、強みである“違い”の存在に関連して、統一的な大学共創の理解と方向性を見出すことの困難さがあることがわかる。しかし、共通見解がメンバー同士で共有されることの難しさがある一方で、楽しさ、祭り、熱気といった勢いで、「壁」となるものを破壊しながら何かを創り上げ、進んでいることが感じられている。また、創造的破壊は、メンバー間の深い関係に支えられえていることがわかる。

プロジェクトメンバーに対しては、メンバー同士の関係性が重要であることと大学共創の要は人財であるという思いがあいまって、組織の構成員を強くしていることがわかる。大学共創プロジェクトがメンバー (人) を大切にするのは、メンバー間の“違い”がそもそもの強みであると感じられているからである。これは、横・斜めの連携によって構築されていると感じられている。

最後に、多くの課題を抱えていると感じられている大学共創であるが、適切なりフレクションによって課題を発見し、また、それら課題を解決したことをフィードバックすることで、大学共創の可能性がより大きく広がっていくのではないかという、未来への期待感も大学共創プロジェクトを通して感じられたことである。



## テーマ：大学共創プロジェクトを通して最も強く感じたこと。





# Ⅲ

---

## 大学共創フォーラム 2014

**「みんなで大学共創について  
語ろう！」**

**～Future for University Co-creation～」**

日 時：2014年12月13日(土)13:00～17:00

場 所：金沢学生のまち市民交流館 交流ホール



# 大学共創フォーラム2014

みんなで大学共創について語ろう！  
～Future for University Co-creation～



日時: 12月13日(土)  
13:00～17:00  
(受付開始 12:30)

会場: 金沢学生のまち市民交流館 交流ホール  
(石川県金沢市片町2-5-17)

主催: 大学共創プロジェクト

金沢大学 大学教育開発・支援センター  
富山大学 大学教育支援センター  
福井大学 高等教育推進センター  
北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター  
大学コンソーシアム石川

共催: 大学行政管理学会中部・北陸地区研究会

主催：大学共創プロジェクト(北陸地区4大学プロジェクト)、大学コンソーシアム石川  
共催：大学行政管理学会中部・北陸地区研究会  
日時：12月13日(土) 13:00～17:00 (受付開始 12:30)  
会場：金沢学生のまち市民交流館 交流ホール(石川県金沢市片町2-5-17)  
対象：大学教職員、大学生・大学院生、一般の方  
定員：50名

趣旨： 教員・職員・学生によって形成される大学組織では、各構成員がつながりあいながら大学運営・キャンパスライフの日常が営まれている。過去4年間の大学共創プロジェクトの企画実践を通して、改めて、大学における共創とは何なのかについて、参加者みんなで対話し、具体的なイメージや今後の方向性について共有したい。

内容： グループワーク①では、「ワールドカフェ」の手法を用いた対話を通して、参加者各人が「大学共創」の理解を深め、そのイメージを共有します。グループワーク②では、大学共創の未来について「未来新聞」へと収束させていきます。参加者全員が「共に創る」ことの意義や「新しい気づき」を実感できるような内容になっています。

## 当日のスケジュール

- 13:00 — 開会挨拶・趣旨説明  
13:10 — 話題提供「学生FDスタッフAC燦presents 大学共創の未来への軌跡」  
雨宮 ゆり (京都産業大学 学長室・教育支援研究開発センター職員)  
徳田 義貴 (京都産業大学 経営学部会計ファイナンス学科3年、  
学生FDスタッフAC燦代表)  
13:50 — グループワーク①【ワールドカフェ in Kanazawa】「大学共創って何だろう？」  
15:30 — グループワーク②【未来新聞づくり】「大学共創の未来とは？」  
16:10 — 全体発表・総括  
16:50 — クロージング・閉会挨拶  
[全体進行：林 透(北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター 客員准教授)]  
※本フォーラム終了後、近隣にて情報交換会を行います。参加希望の方には別途詳細をご連絡いたします。

### 【お申込み】

申込は、件名「大学共創フォーラム申込」とし、  
① 氏名、② 所属機関・職名、③ E-mailアドレス、  
④ 情報交換会参加希望の有無、以上の4点を  
記入の上、下記アドレス宛に送信願います。  
e-mail: murakami@ucon-ijp

### 【申込締切】

**12月4日(木)**までとします。ただし、定員となり次第、申込を締め切らせていただきます。

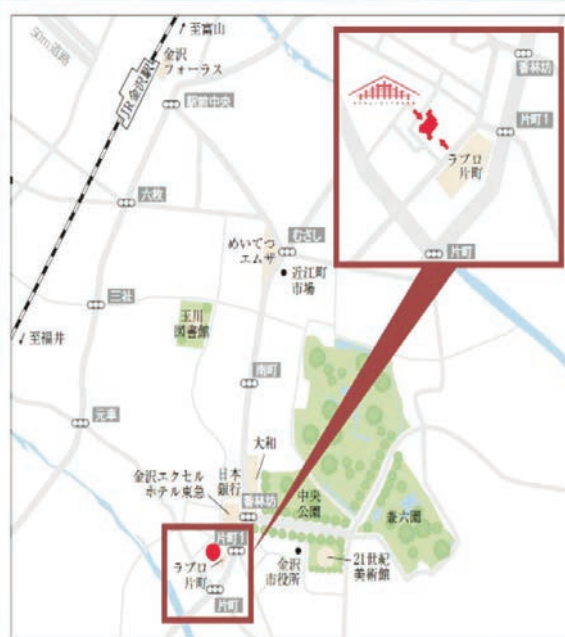
### 【お問合せ】

一般社団法人 大学コンソーシアム石川  
(担当：村上)

TEL:076-223-1633 e-mail: murakami@ucon-ijp

### 【会場アクセス】

会場には、右図を参照の上、お越してください。駐車場は、ありませんので、公共交通機関にて来場願います。北鉄バスで「片町」下車徒歩2分、「片町中央通」下車徒歩5分。



## 開会挨拶・趣旨説明

青野 透（金沢大学大学教育開発・支援センター副センター長・教授）

本日は、遠く関東や関西からもお運びいただきありがとうございます。大学共創プロジェクトは、今年で4年目になります。富山大学、北陸先端大、金沢大学、福井大学という北陸地区の国立大学4大学が主催するもので、大学コンソーシアム石川のほか、大学行政管理学会中部・北陸地区研究会に共催を頂いて実施しています。

目的の一つは、皆で大学についての固定観念を壊していくことです。壊したものが新しく創るための土台になっていくので、一生懸命みんなで壊しましょう。その後、壊した責任を取って創っていくこととなります。ですから、今から頭の中を空っぽにして、今までの固定観念、既成観念を壊すつもりでチャレンジしたいと思います。それが一番できにくいのは私のような年配の教員ですので、若い人たちは特にチャレンジングに、私たちにけしかけるような発言をしていただきたいと思います。最終的には2グループで決勝戦をしていただきますが、仲良く、そして全て壊して新しいものを創る過程を皆で見届けようと思います。今日は一緒に頑張りましょう。



**林客員准教授** 青野先生、ありがとうございました。私は、本日の総合司会を務めさせていただく北陸先端科学技術大学院大学の大学院教育イニシアティブセンター客員准教授の林です。よろしく申し上げます。

早速、最初の話題提供に入りたいと思います。北陸の国立4大学で教職員・学生のグループで大学共創プロジェクトを組んで、毎年この時期にフォーラム等を開いています。これまでは大学教育について求められる人材像を考えたり、去年は皆でシラバスを作りました。今年4年目を迎えて、「大学共創とは何だろう。もう一回考えてみよう」という話が、メンバーの中でも特に学生から出ました。ですから、いつもはタイトルを「みんなで大学教育について語ろう」としているのですが、今回は「みんなで大学共創について語ろう」としました。

共に創り上げていく大学（大学共創）の中には、大学教育も含まれます。われわれは北陸地区3県の大学間で連携しているのですが、一大学で積極的に活動されている大学があります。それが今日お呼びした京都産業大学です。京産大では、学内で教員、職員、特に学生が非常に活発に、仲良く、楽しく活動されているように見受けられます。今日は京産大の取組について話題提供していただいて、われわれも少し勉強させていただきたい。それから、今日は大学共創の未来について考えていきますので、そのためにも非常に有益だろうと思います。

「学生FDスタッフAC燦 presents 大学共創の未来への軌跡」と題し、話題提供をしていただきたいと思います。京都産業大学の学長室・教育支援研究開発センター職員の雨宮さんです。雨宮さんは、この4月に京都産業大学に採用され、学生FDスタッフAC燦の活動支援のほか、全学FD/SD研修会や授業アンケート等の業務にも励んでおられ、一番忙しいであろうセクションの学長室でばりばり働かれています。それから、経営学部会計ファイナンス学科3年生、学生FD代表の徳田義貴君です。徳田君は、2012年に京産大の経営学部に入學し、8月に開かれた「学生FDサミット2014」で中心的に活躍された方です。それでは、よろしく申し上げます。

## 話題提供

### 「学生 FD スタッフ AC 燦 presents 大学共創の未来への軌跡」

雨宮 ゆり（京都産業大学学長室，教育支援研究開発センター職員）

徳田 義貴（京都産業大学経営学部会計ファイナンス学科 3 年生，  
学生 FD スタッフ AC 燦代表）

徳田学生 FD スタッフ AC 燦代表 それでは，京都産業大学学生 FD スタッフ AC 燦のプレゼンテーションを始めさせていただきたいと思います。ご紹介にあずかりました燦の代表を務めております徳田義貴です。

雨宮教育支援研究開発センター職員 同じく，京都産業大学学長室の雨宮ゆりと申します。本日はよろしくお願ひします（拍手）。

#### 1. 京産大の学生 FD の起源

徳田 本日は，最初に京産大の学生 FD の起源，次に「学生 FD とは？」，そして京産大で行っている大学共創がどのようなものかご説明します。その後，燦の特徴，僕たちを支えてくださっている職員との連携の仕方，具体的な燦の活動，最後に今後の展望を発表します。

雨宮 それでは，京産大でどのように学生 FD が始まったのか。学長室・教育支援研究開発担当の森課長のお話を聞いていただきたいと思います。動画をご覧ください。

森課長【動画出演（以下同じ）】 京都産業大学の学生 FD スタッフ AC 燦は，本当によく頑張ってくれています。どうしてこのような活動が始まったのか，そのきっかけをお話ししたいと思います。当時は，授業評価アンケートをしても意味がないと考えている先生方が多い時代でした。成長したい，授業を良くしたいと思っている学生がいることを先生方に分かってもらいたい，授業評価アンケートをどうしていくかを議論し，本当に良い指導とはどういうものか，学内で腹を割って話したいという思いもあり，2010 年 1 月に先生と学生と職員が対等な視点でもの言えるような場をつくりました。1 月の寒い時期だったのですが，教室は熱気むんむんで，良い議論ができました。

それが第 0 期生で，そこから活動が始まりました。いわば種を植えたのは私ですが，その後の具体的な燦の活動を展開してきたのは学生たちで，林君を代表にたくさんのメンバーが加わり，種に水をやり，栄養をやり，実を付かせました。そして今，大きな大木になりつつありますが，ここまで育ててくれたのが山内さんや中沢さんでした。

徳田 僕もこの話を初めて聞いたときに，自分たちの活動の前身となる原形があったとは思ひもしなかったもので，とても驚きました。





雨宮 そうですね。動画の説明だけでは分かりにくいと思いますので、次のプログラムの「学生FDとは？」に移りましょう。

## 2. 学生FDとは

雨宮 早速ですが、徳田君、FDって何ですか？

徳田 何でしょう、フロッピーディスクですか。

雨宮 (会場笑い) 笑っていただけてよかったです。FDとはファカルティ・ディベロプメントのことで、教員目線で行う授業改善・教育改善のことを指しますが、学生FDとは、それを学生に行ってもらうもので、学生が主体的に取り組む活動を指しています。今では学生FDは全国に広まっていて、大学ごとにさまざまな特徴があります。

徳田 学生FDに関連したイベントに参加した際に、北海道から来ている方もいらしたので、すごく広まっているのだなと感じました。

雨宮 そうですね。全国に広まって、数も増えてきましたね。

## 3. 京産大の大学共創

徳田 それでは、次に京産大の大学共創についてご説明します。今回のフォーラムでも「大学共創」がテーマになっていますが、京産大の大学共創とは意味が若干異なっていると思うので、説明していきたいと思います。

**林学生FDスタッフAC 燦初代代表【動画出演（以下同じ）】** 京都産業大学の学生FDスタッフAC 燦の初代代表をしております林隆二と申します。燦がどういう経緯で活動を始めたのか、そもそもなぜ大学共創を目的にするようになったのかを簡単にお話したいと思います。

もともと僕たちは「学生FDスタッフ」という名前で活動をしていたのですが、それでは学生にとって堅苦しくてなじみにくい、何をしているのかもよく分からない。学生が入りやすいように親しみの持てる名前にしたいと思い、「燦」という愛称を考えました。この漢字は当時1年生のメンバーの乙倉君が提案してくれたもので、「太陽燦々」のように使われる漢字で、美しくきらびやかさま、光り輝くさまという意味があります。京都産業大学がもっと光り輝く大学になってほしいという願いと、僕たち団体自身も、もっと活躍していけるようになりたいという二つの願いを込めてこの名前にしました。

ACも名前の一つで、Academe Co-Creating Committee (大学共創委員会)の頭文字を取っています。学生はFDというものをほとんど知らず、自分たちのやりたいことをもう少し分かりやすく伝えたいという思いから、大学共創の4文字を採用しました。

学生FDスタッフとして活動していたころは、授業を良くするのに学生の声を生かしたり、授業に対する不満を意見としてまとめたりすることで大学の授業を良くしていくことを目的に活動をしようとしていました。しかし、初期メンバーで開いたミーティングでこれから何をしていくかを話し合っているときに、学生だけの意見を聞いていて大学が良くなるのか、授業が良くなるのかというところに疑問を感じ、学生はもちろん、先生や職員の声にも興味がありました。そして、自分たちが本当にやりたいのは、大学を構成している先生と職員と学生という3者から意見を聞いて、大学や授業を良くしていくことだという結論に至ったので、「学生FDス

タッフ」と名乗るより、大学を共に創っていく「共創」という言葉の方がふさわしいと思い、「大学共創委員会・燦」という名前で活動することになりました。

最初に名前を変えようかという話が始まってから、最後に決めるまでに半年かかった覚えがあります。最終的に「大学共創」にしたのも、大学が休みの期間中に、他のメンバー3人が京都駅前のファミレスに昼12時ぐらいから集まって、話し合っただけという話で頑張りました。夕方5時か6時ぐらいまで、しょうもない世間話も交えて考え出した名前です。最終的に、京産大は京都の大学なので、和の感じがいいかなと思って「燦」にしました。京産大の「産」にもかかっています。

**徳田** 初代代表の話聞いて、名前に大変深い意味が込められていることがよく分かりました。

**雨宮** 最初にいろいろ考えていたのですね。林君のDNAが今の燦にも脈々と受け継がれていますが、そんな今の燦の特徴の説明をお願いします。

#### 4. AC 燦の特徴

**徳田** 燦の特徴の一つとして、やはり学生主体が挙げられます。第18回のFDフォーラムを開催したときには戦隊物の奇抜な格好をして発表したのですが、目の前で見ていらっしゃるのには教職員の方々がほとんどでした。燦の学生は非常にこだわりを持っていて、教職員の方からもアドバイスいただくのですが、それはそれとして置いておいて、自分たちで考えて活動を展開しています。

**雨宮** 体を張っていますね。燦(SAN)レンジャーは伝説と化しています。

**徳田** さらに、燦の特徴にはデザイン力の高さが挙げられます。「AC 燦共創データブック」は全てWordで作っており、大変スキルが高いと言えます。

**雨宮** 初めて「共創データブック」を見たときは、学生たちのレベルの高さに私もびっくりしたのですが、このようなスキルはどうすれば身に付くのでしょうか。

**徳田** 基本的には先輩と一緒にやっていくうちに覚えます。そのうち自分でも作るようになり、みんなからアドバイスをもらいながら自分でもやってやろうという気持ちから、どんどんうまくなっていくのではないかと考えています。

そして、分析力の高さが挙げられます。「共創データブック」に載っている「共創シート」というアンケートはイベントごとに取りっており、結果をExcelに落とし、分析して表に出します。それから、「高等教育フォーラム」で自分たちの活動に関する論文を出すなど、さまざまな分析を行っています。

**雨宮** イベントの企画から振り返り、書いて、まとめてというPDCAサイクルを回しているということですね。

そして、燦が活動する上では、京産大の強みも欠かせないと思います。われわれの大学は、文理8学部が一つのキャンパスに集まっています。ですから、募集をかけると、燦にも多彩なメンバーが集まってきます。何かイベントを行うときにも参加者が集まりやすいという特徴があります。学内にはF工房というものがあ、学内にファシリテーションを普及させています。燦のイベントでも「しゃべり場」を行うなど、燦の活動の陰にはF工房の存在が欠かせません。

## 5. 職員と学生の連携

徳田 実際に活動していく中では、教育支援の方々と密に連携を取っています。

**山内教育支援研究開発センター職員【動画出演（以下同じ）】** 他大学から「学生が生き生きしていますね。実は職員が引っ張っているのではないですか」と言われます。「どちらかという職員が学生に振り回されているのですよ」と説明することもあります。

**中沢教育支援研究開発センター職員【動画出演（以下同じ）】** そんな京都産業大学の主体的な学生 FD 燦ですが、それは京産大の学生と職員の関係性がどうなっているからそんなことになるのでしょうか。あの手紙を読まないことには皆さんにその関係性を理解してもらえないと思いますので、ぜひあの手紙を読んでください。

山内 では、読みましょうか。1 年前に燦を卒業する 1 期生メンバーに宛てた手紙を読んでもみます。

「この春、AC 燦を、そして京都産業大学を卒業する皆さんへ、ご卒業おめでとうございます。この手紙は、卒業して、これから社会へ旅立つ皆さんへのお祝いの気持ちと、京都産業大学で貴重な 4 年間の中で燦の活動に貢献してくれたことへの感謝の気持ちを込めて、そして 2012 年夏の学生 FD サミットの分科会で岩倉君が CERADES (Center for Research and Development for Educational Support: 教育支援研究開発センターの略称) の職員に宛てて書いてくれた手紙への返信を兼ねて書いています。私もなるべく正直に書きます。

ちょうど 3 年前の春に CERADES へ異動してきて最初に任された私の仕事が、学生 FD スタッフの再結成でした。学生時代は『授業ではどうやったら単位をもらえるか』しか考えていなかった私にとって、授業を一緒に良くしていこうという学生募集と言ったところで、本当に手を挙げてくれる学生なんているのかと、半分疑いながらホームページで告知を始めました。すると、告知を始めて間もなく来てくれた 1 人の男、林君と準備した初めての募集説明会は、待てども誰も来ない。さすがに当初ご挨拶いただくためにスタンバイしていただいていた当時のセンター長、並松先生も『うちのゼミ生に声を掛けて、明日の説明会に来させますわ』と言わざるを得ない状況で迎えた翌日の説明会、サクラとして来てくれた並松ゼミ生のうちの 1 人が岩倉君でした。そのときは他にも 10 数名の学生が来てくれていたことを覚えています。

『ここに来てくれた学生を逃すまい』と密かに心に誓っていました。参加学生に配布した『説明会出席カード』と題した用紙は、実はメンバー登録カードを兼ねていたのです。授業の出席表と同じ感覚で書いたつもりが、いつの間にかメンバーに登録され、その日のうちに次に集まる日が調整・連絡されるという、まるで悪徳商法のような学生集めでした。そのときに被害に遭われた方、ごめんなさい。あのときは本当に学生集めに必死だったのです。でも、その後は他大学が悩んでおられる学生集めには全く苦労しませんでした。

集まったメンバーと同じく、私たち CERADES スタッフも、学生 FD に関するノウハウや知識はゼロの状態からのスタートでした。立命館大学や追手門学院大学、京都文教大学にお世話になって、とにかく他大学と交流をして、京都産業大学ではどんな活動をしていこうかと真剣に議論しましたね。他流試合、私は燦がたった 3 年間で学内外から評価していただける団体になった秘訣はここにあると思っています。『何も知らないので教えてください』と少々弱気な感じで他大学に飛び込んでいったはずなのに、帰るときにはみんなが『あの大学に負けたくない。あいつらより絶対面白いことをやってやる』という思いになっていましたよね。そういった思いが原動力になって、『京産共創』プロジェクトやマイケル・サンデルのイベントという、これまで本学にはなかった本学学生企画による、教員・職員・学生が語り合う新たな場と機会の提供

がうまく形になったのだと思います。

また、学内では特に負けず嫌いっぷりを発揮してくれましたね。初登壇のサミットでは、緊急記者会見風プレゼンで参加者を釘付けにし、それ以降も、「手紙」では、司会の学生や聴衆の教職員の涙を誘い、でも、泣いてくれていたのは全部男性やったね。今度の FD フォーラムでは、200 名強の教職員の前で堂々と燦 (SAN) レンジャー登場で、学生 FD の本質を真剣に問い掛ける。そして、自分たちで自分たちのプロモーション DVD を作り、他大学に配りまくって自分たちを売り込む。

でも、ふざけているばかりではなく、収集した意見は『データブック』や「高等教育フォーラム」などへの投稿、それから学会発表で文字化・データ化して、共有・発信する。そして、学生 FD スタッフの思いに着目した新しい分科会を企画・運営してみる。ただのイベント屋ではないところもきちんと評価していただけているのが燦のすごいところだと思っています。まさに大学が目指している型破りな挑戦を続け、京産大は次は何をやらかしてくれるのだろうかという期待と注目をしていただける団体になっていきました。

「京産の学生が底抜けに明るいのはなぜですか」「燦が急成長した秘訣は何ですか」と学外の方からよく聞かれます。そう言っていただくたびに誇らしげに思う一方で、「職員主導で学生を引っ張っているのではないの？」と疑われることもしばしばあります。でも、私からしたら、学生から「これをやりたいからあれをやっておいてほしい」と職員の方がこき使われ、飲み会の場では職員の恋愛論を全否定して、いつの間にか学生に主導権を握られている。「どこが職員主導や」と全国の大学に向かって大声で叫びたい気分です。

結成から今日まで語り尽くせないほどいろいろなことがあったけれど、燦がここまで飛躍的に成長したのは、卒業生のみんなのご尽力のおかげだと思っています。そこで、一人一人に宛てたメッセージを読みました。その後、メンバーになった時期も動機もばらばら、一人一人の個性も強すぎるし、暑苦しいけれど、表裏がないみんなと『アホなことを真剣に、マジメなことを楽しく』という燦の活動理念の下、一緒に切磋琢磨しながら活動できたことを本当にうれしく、誇りに思います。

みんなが卒業してしまうのは正直寂しいけれど、こうやって一緒に頑張ってきた学生の社会への旅立ちの日を心からお祝いできるのは、私にとっても、この職業に就いてよかったなと思える瞬間でもあります。4 月から新たな生活をスタートされるかと思いますが、燦の活動理念『アホなことを真剣に、マジメなことを楽しく』を胸に秘めて頑張ってください。CERADES 職員一同、皆さんの今後のご活躍を応援しています」。

**徳田** 長かったですね。山内さんの燦に対する熱い気持ちがにじみ出ていたと思います。ちなみに、あの手紙は、書くときに考えすぎてしまって、気づいたら朝になっていたようです。

**雨宮** 職員の鑑としか言いようがありませんね。私も見習わなくてはと思います。

**徳田** 職員と燦の関わりがすごく変わっていると聞いたのですが、雨宮さん、その辺はどう思いますか。

**雨宮** 友達でもなく、私たちは先生でもないのですが、付かず離れず、絶妙な関係性の中でやっているといます。動画を撮影した場所は、まさに燦の活動場所になっていて、レファレンスルームといいます。

**徳田** レファレンスルームは、職員の事務室と非常に距離が近く、ミーティングにもいつでも

参加していただくことができ、すごく活発に、時に熱く真剣に語り合っています。

雨宮 飲み会などでも熱く、熱苦しく語り合って、時間があっという間に過ぎることもよくあります。こういった関係性の中で、これまで燦がどんな活動をしてきたのか、説明をお願いします。

## 6. AC 燦の活動

徳田 それでは、燦の活動について具体的にご説明します。やはり燦の活動の中で一番特徴的なのは、「燦 presents『京産共創』プロジェクト」です。このプロジェクトは過去3回にわたって実施しています。一番大きな特徴は、学生と教員・職員が集まる貴重な場となっていることです。これは学校のイベントの中でも数少ない場所です。

このプロジェクトは、一つのテーマで行うグループディスカッションとなっており、学生と教員と職員をランダムに混ぜて、一つのテーブルに6~7人を集めています。ここで一つのテーマについてグループディスカッションをしています。目的は、学生・教員・職員の3者がお互いの立場を超えて意見交換する場所を提供することとなっています。

タイトルは、Ⅰ「~京都産業大学をどう創っていくか~」、Ⅱ「~京都産業大学をどう創っていくか~」、Ⅲ「~僕らが創る新たな絆~」となっています。最初に、Ⅰで京都産業大学をどう創っていくかというざっくりした話をグループディスカッションで行いました。次に、Ⅰで出たテーマを抽出し、Ⅱでより詳しく話しました。詳しくは今日お配りした「データブックⅡ」に書いてありますし、「データブックⅠ」は京産大のホームページからダウンロードすることができます。

Ⅰ~Ⅲの参加者数は、年々増えています。Ⅰ~Ⅲの中で、職員数はⅠが29人と一番多いのですが、このときは初めだったので、教育支援の職員に動員を手伝っていただいて、それだけ人数を集めました。その後は自分たち中心でやって、Ⅱで20人、Ⅲで27人と、職員数をキープしてきました。

僕も去年、「共創Ⅲ」に参加して動員をさせてもらい、職員のいる部署、教員の研究室に行ってビラを配って宣伝・紹介しました。アポなしで行って怒られたこともありました。学生にもビラを配り、ポスターで宣伝しました。教員に関しては、授業の終わりに声を掛けて、次の授業の冒頭で説明させてほしいとお願いし、説明したこともあります。Ⅲの人数合計は140人で、集めるのにいつも苦勞して、去年も死にもの狂いで、吐きそうになりながら集めていました。これだけ共創プロジェクトへの参加人数が増えてきているので、燦の大学の中での名前も浸透してきているのではないかと思います。

「共創Ⅰ」と「共創Ⅱ」では、「京都産業大学にとって白熱教室とは？」というテーマでイベントを行いました。これはちょうどこのとき話題になっていたハーバード大学のマイケル・サデル教授の双方向型授業についてのイベントで、参加人数も96人集めることができました。

さらに、「共創データブックⅡ」の共創シートのアンケートの一部に「イベント全体での共感度調査」という項目があります。「全体を通して楽しめた」という項目と、参加者同士の交流に関する項目があり、全て5段階中4以上を取っていて、参加者の満足度が高く、交流が盛んに行われていたと思います。これらのイベントを通して、先ほどの参加人数、アンケート調査から見ると、燦への理解・関心が高まっていて、学内で大学共創が少しずつ広まっているのではないかと思います。

学内での大学共創から広まってきた成果として、グローバル・サイエンス・セミナー、全学FD/SD研修会を行いました。大学のグローバル人材育成推進事業の一環としてグローバル・サ

イエンス・コースがあります。「共創プロジェクトⅢ」に参加していた教員の方から「ぜひこのプロジェクトの足掛かりになるようなイベントをしてほしい」という依頼を受けて、グローバル・サイエンス・セミナーを行いました。ここでもまた学生・教員・職員を集め、グローバルについてどう思っているのか、グループワーク等を通して、意見を抽出することができました。このように、燦は大学の教育プログラムを作っていく過程でも活躍しています。

次の全学FD/SD研修会は、主催の「障がい学生支援推進団体あすか」（京都産業大学の学生を中心に、障がい学生支援の改善を促す活動を行っている学生団体）と協力して行ったものです。本来ならば「全学FD/SD研修会」は教職員が主導で開くと思うのですが、学生FDスタッフ燦とあすかの方たちと一緒に「ユニバーサルデザイン講義とは」というテーマで、教職員・学生を対象とした研修会を行いました。

そして、これまでのイベントの集大成として、2014年8月に「学生FDサミット2014夏—あなたがキづく未来—」を行いました。全国の学生FDスタッフを京都産業大学に集め、活動紹介、学生FDのこれからについて考えるコンテンツを盛り込んだイベントです。参加者人数は過去最大の474名となっており、他大学の学生を巻き込んでの大学共創になり、結成3年目にしては大きな成果だと思いました。

雨宮 燦はいろいろなことをやってきましたね。これからはどうしますか。

## 7. 今後の展望

徳田 今後の展望として、学生FDの活動は、まだテーマが堅く、難しい、よく分からないという感じだと思います。ですから、活動理念にもあるように「アホなことを真剣に、マジメなことを楽しく」、学生FDという難しいテーマに対してどれだけ楽しくやっていけるかによって、今後、学生FDの未来や大学共創がどう広まっていくかも変わってくるのではないかと思います。

雨宮 さすが代表、決まっていますね！

では、大学共創の未来について、これまでご出演いただいた4名の方がどのように考えているのか、最後にご紹介します。

## 8. 大学共創の未来について

森課長 私にとっての大学共創の未来とは、教職学協働です。現在、教職協働が盛んに叫ばれており、どの大学でも取り組んでいます。しかし、大学共創となると、大学の主役は誰かと考えたときには、私は学生だと思っています。ですから、学生の意見もちゃんと取り入れて改革を進めていきたいと思っていますので、教職だけではなく、教職学協働がいいと思っています。

この取組によって学生たちも成長し、その結果、大学も成長していくということをイメージしています。将来的には、学生が大学の意思決定をする場にも加わって、学生の意見を反映するような場ができればと思っています。

中沢 私は「大学という場の面白みあふれろ」と書きました。私にとって大学は、それまでの学校教育と大きく違う場所なのです。何を学ぶべきかが決まっていなくて、先生は研究をしているわけで、教えるためのトレーニングを受けた人ではない、そこが私は大学教育の魅力だと思います。「これが面白い、これが最先端だ」と思っている人たちが、自分が大好きなことに目を輝かせて子どものように語ってくれる世界があり、そこで「この人、面白いな」と思った人の話を聞きにいけるのが面白いところだと思います。

何でもありだからいろいろな人が集まってきて、いつでもどこでも、面白い人が至るところに転がっているような状態で、燦の活動を通じて面白い人たちがどんどん集まってきてもっと面白くなるような、わくわくするような雰囲気が濃くなって、あふれ出して、大学の外の人たちにまで面白みがあふれていって、それらが影響し合えば、世界中全てが大学のような感じで楽しいのではないかと思ったので、そういう未来がやってきますようにと祈りながら仕事をしようと思います。

**山内** 私は「共創の輪が広がれば京産大は変わる」と書きました。中沢さんの話を受けて、いろいろな面白い人が集まってくるのは、『京産共創』プロジェクト」の場だったり、今みんなが携わっている取組の中で、いろいろな機会をつくることができていると思います。

日ごろは同じ学科の学生や教員としか接しないけれども、京産は8学部が同じキャンパスにあり、なぜか今までつながりがなかった面白い人たちがひよんなことをきっかけに集まってきて、自分にとって新しい発見があったり、こんな面白いところもあるのかという気づきの場がつかれるのではないかと思います。そういった輪がもっと広がっていけば、うちの大学がもっと面白いふうになるのではないかと、それが大きな力となって変わってほしいという期待感を込めて、この言葉にしました。

**林初代代表** 最後に「大学共創の未来について」という質問を投げ掛けられたのですが、ポイントは四つあると思います。

まず、「自由に」。これは強制力を働かせたり、参加しなければいけないということではなく、参加したい人が自主的に大学共創の輪に参加してくれるべきで、自主性を尊重した方がいいという意味です。

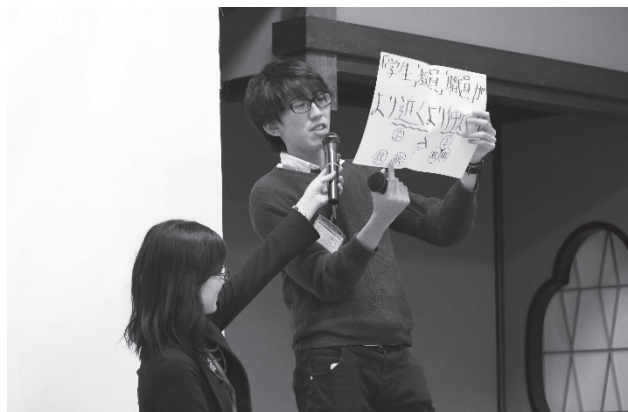
それから、「誰でも」。限られた人たちだけでこの大学について話すのではなく、教員・職員・学生、誰でもが大学について語り合えるのが大学共創の未来の理想だと思います。

そして、「いつでも日常的に」を強調したいと思います。僕らも『京産共創』プロジェクト」など、1日限りの大学共創のイベントをこれまで何回か開催してきたのですが、やはり1日だけだと、なかなかその日にスケジュールが合わなくて来られない人もたくさんいました。ですから、思い立ったときにふらっと寄れるスペースで大学について自由に語り合えるような、誰かが集まって大学について熱く語り合っているような場が大学内にあったらもっといいのではないかと思います。もちろん1日通しての大きなイベントを開催するのも面白いと思っているのですが、それにプラスして日常的に集まって話をする場があれば、大学共創が大学に根付いている感じがするので、そういう場が今後できてくれば、もっと進むのではないかと思います。

最後、これが一番大事だと思うのですが、「楽しく」です。つまらない大学共創はやらなくていいと思います。教員も職員も学生も大学共創を楽しんでやってもらいたい、みんなが楽しむことで大学がもっと良くなっていき、笑顔が増えていくと思います。

**雨宮** いろいろな大学共創の未来が描かれていましたが、徳田君はどう考えていますか。

**徳田** 「学生・教員・職員がより近く、より仲良く」です。今でこそ、学生FD活動、大学共創がいわれて、以前にも増してそういう活動が進んできていると思うのですが、やはりまだ学生と教員・職



員に距離があるのではないかと考えています。ですから、先ほど元代表の林さんが言っていたように、日常的にこういう会が開かれて、学生と教員と職員がより近く、大学のことについて、日ごろの大学に関する事、授業に関する事などを話していけば、大学がより良い方向に進んでいくのではないかと、最終的にはこれぐらい近くなれば大学共創の未来も明るいのではないかと考えています。

林さんも言っていましたが、最終的には、大学共創は、楽しく、面白くなかったら意味がないと考えています。

**両宮** 口で言うのは簡単なのですが、実際にやるとなると一番難しいことなのではないかと思っています。でも、その難しいことにあえて取り組むことに価値があるのではないかと考えています。徳田君、これからも一緒に頑張ろうね。

**徳田** ありがとうございます（拍手）。

**林客員准教授** 京産大での取組をビデオ映像も使いながら紹介していただきました。素晴らしい話題提供をありがとうございました。最後の大学共創の未来についてのビデオは、今回用に作っていただいたのですか。

**徳田** そうです。事前にこのフォーラムのテーマを聞いていましたので。

**林客員准教授** ありがとうございます。AC燦について今日聞かせていただいて、ACの意味が大学共創だと初めて分かりました。他の方々も京産大の取組でお聞きになられていることがあるかと思っています。私は、どちらかというと職員主導なのではないかと思っていたのですが、ふたを開けると学生主導で、職員の恋愛論もひっくり返されるという楽しい話もありました。

この後、グループワークで、大学共創というものやその未来について考えていくわけですが、その前段階として、京産大の取組を通して大学共創を考えるファーストステップになったのではないかと考えています。いま一度、2人に盛大な拍手をお願いします。ありがとうございました（拍手）。



## グループワーク①

### 【ワールドカフェ in Kanazawa】

#### 「大学共創って何だろう?」

## イントロダクション

**林客員准教授** 京都産業大学のお話を受けて、そのままグループワークに入っていけるような感じかと思うのですが、ここから本格的にグループワークのモードに入っていきますので、本フォーラムの趣旨を理解して入っていくことが最後のアウトプットにつながっていくということで、いま一度ご説明させていただきます。

京産大の話でも出ていましたが、大学の組織や日々の大学運営やキャンパスライフは、教員と職員と学生で形成されるものです。過去4年間の大学共創プロジェクトの中でも、われわれはそういう認識を徐々に強くしているところですが、その中で他大学の方々と一緒に、大学における共創とは何なのかを参加者みんなで対話し、具体的なイメージや今後の方向性、未来について共有したいというのが今日の趣旨です。

われわれが大学共創プロジェクトとしてこの4年間やってきました北陸の大学間連携としての大学共創の軌跡を参考資料にまとめてあります。その最後に載っている「大学共創宣言」というのは、何かを規定した方がいいだろうと考えて、われわれで宣言をうたいました。いろいろ活動していく中で、もう少し見直していけばよいと思っています。われわれが進めてきたコンセプトは、大学間連携の強化であり、他の大学と仲良くやっていきたいと思いますということであり、最初は教員と職員の対話でしたが、やはり学生に参加してもらうことが大事であり、教員と職員と学生で大学のことを考えていこうとしています。



京産大の中沢さんから、地域にあふれていくという話もありましたが、私も全く同感です。大学共創の活動をしていくことを通して、その活動が地域に、グローバルへとつながっていくことを夢見ています。

そういう中で、今日は活発に楽しく議論したいということで、ラウンド1では、最近よく大学と地域で取り入れられている「ワールドカフェ」の手法を用いて「大学共創」の理解を深め、そのイメージを共有します。ワールドカフェでは、アイデアが発散はしますけれども、収束がなかなかつきませんので、最後は少しまとめていきます。今日の段階でのグループの集合知を出していくことを目的に、グループワーク2では「未来新聞」というものを作っていただきます。共創の場での対話と発表を通して新しい気づき、それから明日への、未来へのエネルギーになればと思います。簡単ですが、冒頭のオリエンテーションとしてご説明しました。

ここからワールドカフェに入っていきます。われわれ大学共創プロジェクトのメンバーで、11月から山口大学の大学教育センターの教員に着任した河島君に進行をバトンタッチしたいと思います。

**河島** これからワールドカフェの説明をします。よろしくお願いします。これからグループワークを始めるに当たり、少しずつ皆さんの心と体を柔らかく、アイスブレイクをしていきたいと思います。お茶を飲みながら、お菓子を食べながら話を聞いていただいて、これからの対話を円滑に進めていっていただきたいと思います。

では、早速グループワークに入っていきたいと思います。事前にお配りしてある「自己紹介シート」に、名前、ニックネーム、所属、大学、参加動機、今の気持ちを書いていただき、1人1分程度で自己紹介をしていただきたいと思います。

**河島** 「自己紹介シート」の記入が済みましたら、自己紹介を始めてください。よろしくお願いいたします。

## 〔自己紹介〕

**河島** 各グループでの自己紹介は大体終わりましたか。グループのメンバーは今日これから共創していく上での大切な仲間ですので、ぜひ顔と名前とニックネームを覚えて、ニックネームで呼び合いながら仲間感を出していただきたいと思います。

では、早速、ワールドカフェの中身の方に移っていききたいと思います。まずテーブルの下の模造紙を出してください。そしてペンを1本握り締めて、気づき、感じたことをどんどん模造紙にメモしてください。整理されていなくても結構です。書き切れないほど書いても結構です。書き切れなければ、メモの上からも言葉を重ねていってください。「大学共創の未来」と真ん中に大きく書いて、各メンバーが手近から書いていきます。

ワールドカフェはアニータ・ブラウンとデイビット・アイザックによって生み出され、1995年以降、実践を通して開発されてきたものです。学校の他にも、行政、企業の商品開発でも積極的に使われている方法です。今日はワールドカフェを実際に体験されたことがある方がたくさんいらっしゃるので、今後の移動もスムーズになると思います。



今回は「大学共創の未来」というテーマで対話をします。後ほど席替えが2回あります。今から始まるのがラウンド1で、その後、席替えをしてラウンド2になります。ラウンド2の名簿の自分が記載されているグループに移動していただきたいと思います。◎が書かれた人は、テーブルホストなので移動しません。それ以外の方々は他のテーブルに行きます。他花受粉といわれますが、大使になって他の国に行き、自国で何が起こったのか、他の国で何が起きているのかという情報を共有・交換し合います。その後にもう一度席替えがあります。ラウンド3は自分が元いたラウンド1のテーブルに戻ってくるという形になります。

ワールドカフェを進めていくに当たっては若干作法がありますので、ぜひこれらを守ってワールドカフェを楽しんでいただきたいと思います。まずはダイアログ、対話を楽しむというこ

とです。無理にまとめたり、メンバーの意見を批判したりする必要はありません。対話を通して思ったままのことを深めていきます。そして、その対話の中での気づき、感じたことを模造紙に書いていきます。使い方は自由です。絵を描いていただいても文字を書いていただいても結構です。メンバーの話をよく聞いて、自分自身の考えを深めていっていただきたいと思います。そして否定をしないこと。最後に、話があちこちに飛んでしまうかと思いますが、今回はあくまでも「大学共創」がテーマですので、そこにフォーカスして話をしていっていただきたいと思います。模造紙に思ったことを書く際には、皆さんが見えやすい真ん中の方に書いていただく方がいいと思います。

もう一つ皆さんにお願いしたいことがあります。私が右手を挙げたら、皆さんもまねして右手を挙げてください。20分間でラウンドを回しますが、「20分たちました」と皆さんの対話を止めるようなことは私の方からはいたしません。その代わりに、私が右手を挙げてこの辺をふらついていると思いますので、気づいた方は右手を挙げて、私の方に注意を向けていただく形でラウンドを次に進めていきます。

では、早速ですが、模造紙の真ん中に「大学共創の未来」と書いてください。

**河島** まずは、ラウンド1「テーマを深めよう！」です。「『大学共創って何だろう』あなたの考えやイメージを話してみよう！」ということで、私の方からは特に説明しません。大学共創という言葉聞いて、また、燦のお二方の話、体験、また、ビデオの中でさまざまありましたが、そういったものを受けて、自分の中で大学共創とは何なのかを自由に考え、イメージを共有して膨らませていってください。では、ラウンド1を始めます。



### 〔グループワーク〕

**河島** 次にラウンド2に移ります。お手持ちの名簿を再確認してラウンド2のグループに移ってください。各グループで対話された内容を他のグループに持っていき、他のグループで話し合われた内容を自分のグループに持っていき作業の中間になります。

では、移動をお願いします。

テーブルホストたちは他国の大使たちを快く歓迎してください。ラウンド2のテーマは「考えを広げよう！」です。同じようなテーマですが、全く同じ話にはならないのではないかと思います。ラウンド1の話を踏まえて、新たなメンバーで大学共創とは何だろうということで新たな考え、他のメンバーの話を聞いて芽生えはじめたイメージなどを共有しながら、次のラウンドに移っていきます。

### 〔グループワーク〕

**河島** では、ラウンド3に移ります。ラウンド3では元いたグループに戻りますので、迷子に

ならないように元のグループにお帰りください。

この後、未来新聞にまとめていきますので、大学共創の未来について皆さんで対話をしていて、「気づきや発見をまとめよう！」というテーマを深めていっていただきたいと思います。冒頭で京産大の燦のメンバーの方々が大学共創の未来について語っていましたが、そのお話なども参考に、これまでのワールドカフェの対話も参考にしつつ、大学共創の未来について対話してってください。では、ラウンド3をスタートします。

## 〔グループワーク〕

**河島** まだまだ話し足りないと感じだと思いましたが、ここまででワールドカフェをいったん終わります。これ以降もグループワークをしていきますので、その中で対話を通して大学共創について深めて、大学共創の未来について形にしてってください。

これからの時間は振り返りをさせていただきます。1～2分の短い時間で結構ですので、ラウンド1～3を通して得たもの、感じたことをいま一度振り返ってください。冒頭の京産大のお話なども振り返りながら、大学共創について、その未来について考える時間をほんの少しだけ設けたいと思います。では、ほんの少し振り返りの時間です。

## グループワーク②

### 【未来新聞づくり】「大学共創の未来とは？」

**河島** グループワーク②では、未来新聞づくりをします。未来新聞づくりとは何か、何のためにするのかをご説明します。これまで京産大のお話を聞いて、また、ワールドカフェを通して、さまざまな思いや気づきが発散されてきたと思います。その落としどころとして未来新聞づくりを行い、総括、明日へのアクションへと収束させていきます。

テーブルに枠だけが書かれている新聞の下地を出していただいて、次の未来新聞づくりに移っていきたいと思います。ワールドカフェで使用した模造紙に書かれているたくさんのメモ、アイデアを使って、それをぜひ参考にしながら新聞記事をまとめていってください。

**林客員准教授** 3 ラウンドまでに話したことを全くリセットするのではなく、ワールドカフェの模造紙も見ながら、アイデアを生かしているいろいろ工夫してください。

未来新聞の予備は多少用意してありますが、相当アイデアがまとまっていないと、いきなり書いていくのは大変だと思います。ポストイットにアイデアを書き出して、まとめてから書くとか、シャープペンシルで下書きをする方法もあると思います。

**河島** 林先生、ありがとうございました。サンプルを参考に未来新聞を作成してください。ただし、「どうだ。すごいぞ。ものすごいアイデアだ。めちゃくちゃきれいにやった。何時間もかかった」というのでは困ります。時間内に発刊できるように、ぜひ時間に気を付けながら未来新聞づくりをしていただきたいと思います。ご協力をお願いします。

既に説明がありましたが、あくまでも未来の新聞ですので、「2020年に東京ではオリンピックが・・・」というように、未来について書いてください。10年後、20年後、30年後、あるいは5年後でもいいのですが、未来に大学共創では何が起こったのか、未来に起こった出来事を今書くのが未来新聞です。時間は40分ほどを予定しています。時間内に仕上げてくださいようお願いします。では、未来新聞づくりをスタートします。

## 〔グループワーク〕



---

## グループワーク発表

---

**河島** それでは、A～Dグループの発表を始めます。1分で発表してください。一番言いたいことをピンポイントで皆さんに伝えていただきたいと思います。各グループ、「どうだ。すごいだろう。このグループが一番なのだ」という感じで、皆さんの印象に残るプレゼンテーションをしてください。その中で一番印象に残った、面白かった、一番好きな新聞の記事、トピックスに手で投票していただきます。そして、最後に勝ち残ったグループが全体に発表するという流れになります。自分のグループには手を挙げず、必ず他のグループに手を挙げます。全ての発表を聞いてから投票します。よろしいでしょうか。

では、グループBから発表をお願いします。

**グループB:** 全国紙「朝陽新聞」、2020年の記事について説明します。まず「塙の取り壊し始まる」ということで、かつてベルリンの壁とも呼ばれた、敷居が高いといわれていた大学の塙の取り壊しが始まった。教員・職員・学生・市民が持つ壁が消え去る第一歩となった。

青空大学学長へのインタビューです。

**グループB:** 青空大学学長のメガネです。壁の取り壊しが始まったことで、今までばらばらだった学生・職員・教員・市民という壁が同時になくなります。これにより、新たな大学の形、学びの場や教える場を提供することにつながると思われます。

**グループB:** それに伴い、ユニバーシティライセンスの発行を開始しました。いつでも誰でも好きな大学に行き、学び、教えることができるライセンスの発行が始まりました。これにより、全ての人に学びが広がることとなりました。

43歳サラリーマンへのインタビューです。

**グループB:** 43歳サラリーマンです。ライセンス発行のおかげで、大学卒業後、継続して勉強できるようになりました。また、今までは教わるだけだったのですが、ライセンスのおかげで自分が学びながら先生役になって教えることもできるようになり、非常に充実した日々を送っています。

**グループB:** ありがとうございます。最後に広告です。「aozora-university.ac.jp」にアクセスしていただいて、ぜひユニバーシティライセンスを取得してください。どうぞよろしくお願いします。以上です（拍手）。

**河島** ありがとうございます。ライセンス制度はなかなか面白いと思います。

1分は意外と短いので、一番の思いを皆さんに伝えていただきたいと思います。では、グループC、よろしくお願いします。

**グループC:** ある家族の話です。以前、家族は別の階に住んでいたり、話していなかったり、息子と娘は非行に走って週1しか帰らず、夫婦仲は最悪、おじいちゃんとおばあちゃんはあるさいなど最悪な家族だったのですが、今はいつも家族団らん、外からもお客さんが来るぐらい

温かい家族で、会話も多く、何でも一緒にするような仲よし夫婦になりました。

これだけ仲良くなったのは、家族での旅行などの行事に、ひたすら家族一緒に参加したからです。さらに、縦型の三世帯住宅を壊して、一つ屋根の下に暮らすようにしました。この家族は絆を創り上げ、お互いを認めて、息子や娘のやりたいことを家族みんなが支え、時に認め、時に叱って、良い家族をつくっていったことが、この家族の現在に至るまでのポイントです。

それと同様、学校でも重鎮のおじさんの職員・教員が、頭ごなしに若い人に話をしても駄目なのです。若い人若くない人、学生も職員・教員も、皆が参加できるような大学になればいいなと思って家族に例えました。以上です（拍手）。

**河島** ありがとうございます。大学が家族でしょうか。家族のような大学は面白いと思いますが、そういう大学こそ共創された大学だと感じました。家族のように、学生と、あるいは先生と職員と一緒に大学を創っていきたいと思います。素晴らしい発表でした。

それでは、グループ A の発表をお願いします。

**グループ A:** グループ A は「お祭り新聞」という名前です。お祭りといえば大学と地域をつなぐ大事なものということで、それを強調したくて「お祭り」というキーワードをタイトルに使いました。

見出しは「知のパワースーツ装着数 1 億人突破」です。知のパワースーツとは、学生をぎらぎら輝かせるスーツです。大学共創プログラムで開発されて、議論されて、学生が地域や職員など、多くの人と関わる中で、一人一人との対話を通じてさまざまな知識を学んで、いろいろな人と関わる中でどんどん成長していく、その結果、学生がぎらぎら輝いていくのが知のパワースーツです。

これから少子化が進んでいく中で、社会は一人一人の力を求めています。大学が生み出したものの中で、一番大事な財産は人だと思うのです。大学に入ってきた人が大学から出力されるときに、社会に貢献できる人になっているかどうか。そこを大事にして、学生をぎらぎらさせるスーツとして知のパワースーツが開発されて、1 億人のぎらぎらする学生が誕生したということです。以上です（拍手）。

**河島** ありがとうございます。知のパワースーツという文字を初めて見たときショッキングだったのですが、なるほど、そういうことですか。ただ、1 億人ぎらぎらしているのもすごいなと思います。なかなか面白いアイデアだと思います。

では、D グループに最後の発表をお願いします。

**グループ D:** さあ、始まりました。朝刊一面斜め読み。今日の新聞は「北ノ國新聞」、怪しい新聞ですね。見出し「斬新、学際がキャンパスを飛び出す」。新聞によりますと、金沢市片町にキャンパスを構える福井きときと大学が、金沢市の片町から香林坊を抜けて武蔵ヶ辻まで 1km 少しい帯を、全部使った文化祭を開催するという事です。全世界の大学初の試みで、ラブロ片町の跡地に入った福井きときと大金沢キャンパスを本部に行われます。



一番の目玉は、デパートとのタイアップです。武蔵ヶ辻のめいてつ・エムザ、香林坊の大和とタイアップして、学生が実際に売り場に出て仕事をします。でも、普通の仕事ではありません。そこは文化祭ですから、何か皆さんを楽しませる秘訣があるはず。住民の皆さんも期待しています。文化祭をお楽しみに。ありがとうございました（拍手）。

**河島** かなり怪しい新聞ですが、大変面白かったと思います。

では、グループA～Dに発表していただいた中で、皆さんが一番印象に残った、一番のお気に入りだと思ったプレゼンテーションをいま一度思い出して、投票してください。Aから順番にいきたいと思います。数の論理で決まってしまうので、自分のグループには入れてはいけません。あくまでも心に残ったもの、自分の一番のお気に入りのものに素直に手をお挙げください。

## 〔投票〕

**林客員准教授** それでは、E～Hグループの発表を始めます。お願いします。

**グループE:** Eグループの新聞は「緑のタヌキ新聞」です。例の商品からインスピレーションを受けて、この名前にしました。「広がりを見せる大学共創の輪」という見出しが目立つと思うのですが、その中ではフレンドリーが鍵で、例えば教員には堅苦しいイメージがありますが、そういう固定概念を崩すために教員のことをタヌキ学長と呼ぶなど、ニックネームで呼ぶような取組をすればいいと思います。

「域学連携の本格化」というのは、学生・教職員の枠を超えて市民や海外の人との交流事業を行うことも必要だと思います。そして、学校はまずみんなと仲良くなることから始まるので、県人会を催して、仲良くなることから始めましょう。

KZ大学の東京五輪出場が決まりました。おめでとうございます。5種、10名も出るようになりました。目標は金・銀・銅の総取りだということです。ありがとうございました（拍手）。

**林客員准教授** ありがとうございました。いろいろな取組があって面白かったです。

次はFグループです。よろしくお願いします。

**グループF:** 皆さん、突然ですが、「アラブの春」をご存じでしょうか。自分たちの新聞の題名は「キャンパスの春」です。もじったわけではありませんが、それぐらいすごいことが今から起こるということです。

**グループF:** 面白いところだけ持っていかれた感じなのですが、学生や教員・職員、地域が互いに片思いであるという恋愛図式が、何年後かにはみんな相思相愛になる。そういう壁が取っ払われた状態が、この新聞で主張したいことです。

学生には2:6:2という比率で、やる気のある学生と誘われれば参加するような学生とやる気のない学生がいます。そういうところにも壁があって、その壁も取っ払う。結果、やらされ感のない大学を共創していくという記事です。ありがとうございます（拍手）。

**林客員教授** ありがとうございました。Bグループのキーワードも壁がなくなるというものでした。



それではGグループ、お願いします。

**グループG**：2035年の新聞ということにしました。未来のことなので好き勝手に、こんなふうになっていればいいなということを書きました。まず石川の話です。石川で学生サミットが開催されて、全大学が参加しているのですが、その中でも全大学にFDの活動をしている学生団体があって、それぞれの団体が参加してオール石川で活動しています。

富山では、富山で一番大きい、2000人ぐらい入る富山オーバード・ホールで開催しました。参加者は多岐にわたり、学生だけでなく、その家族や教職員、市民の方も多くいらっしまったということです。

福井には今は学生の団体がないので、7月20日に21回目の「白熱教室」を開いたところ、400人ぐらいが参加しました。

それから、新聞なので広告を載せました。2035年の大学共創フォーラムの広告と横浜みなとみらいの大学が開校されることと、岡山大学のスイート・ティー・フードが2030年に開かれるという広告を書いて、新聞っぽくしました。



**林客員准教授** ありがとうございます。いろいろな大学人の集いの全国紙という話でした。最後にHグループ、お願いします。

**グループH**：僕たちHチームは「SEI」という新聞を作りました。生徒(Student)、教育(Education)、改革(Innovation)の頭文字を取った、学生が教育改革を行おうという新聞です。2020年という大まかな年代にして、そのときに学生による教育カリキュラムを作り、それを文科省や学長、執行部や教育部といった外部の人たちにもまとめて話せるような感じにしようということです。学生・教員・職員だけではなく、外部の人たちもひっくるめて共創していこうという考えで、外部も含めて話をしていこうということです。学生も正式委員で、委員会で提案し、決定して、外部の人たちに公表してみようということです。

教育カリキュラムを実践してみて、共創メンバーに入っている学生も、教員も職員も、市民代表や企業、OBや文科省のような外部の評価もひっくるめてどうだったかをここに反映させていくという感じです。

簡単に組織図も描いてみて、学生代表の部も入れて、いろいろな部を作って、学生1人だけでは分からないので、ちょっとしたアドバイザーとして教員や職員をひっくるめてやっていくのが未来の共創だという結論になりました。以上です（拍手）。

**林客員准教授** ありがとうございます。学生提案による教育のイノベーション、ステークホルダーの存在も非常に重視するという事です。

〔投票〕

## 全体発表・総括

**林客員准教授** それでは、Bグループの「朝陽新聞」の発表を2分をお願いします。

**グループB**：2020年の全国紙「朝陽新聞」を斜めに読んでみたいと思います。まず「塙の取り壊し始まる」という見出しです。かつてベルリンの壁とも呼ばれた敷居が高いともいわれてきた大学の塙の取り壊しが始まった。教員・職員・学生、市民の持つ壁が消え去る第一歩となった。青空大学学長のメガネ氏へのインタビューです。

**グループB**：青空大学学長のメガネです。今回、塙の取り壊しが始まったことにより、今まで別々だった教員・職員・市民・学生の、四つの心理的な壁がなくなりました。これから期待されることは、この4者が同時に学ぶ場を提供するだけでなく、学んだことを自分が発信する、教える立場にも開かれる場を提供することです。



**グループB**：ありがとうございました。それに伴い、ユニバーシティライセンスの発行が開始されました。いつでもどこでも誰でも好きな大学に行き、学び、教えることができるライセンスの発行が始まりました。これにより、全ての人に学びが広がることとなりました。三面に、関連インタビューとして市民に聞いています。

**グループB**：メタボが気になりはじめた43歳サラリーマン、名前の設定は頂いておりません。ユニバーシティライセンスの発行に伴い、大学を卒業した後、勉強したいと思って中断していた勉強が、ここに来てようやく続けられることになりました。

また、ユニバーシティライセンスだと、それぞれの登録者はどのようなことが提供できて、どのようなことが学びたいのかを一元管理していますので、私が得意なこと、勉強してきたことを今の学生にお教えすることもできるということで、非常に充実したキャンパスライフを送らせていただいております。

**グループB**：饒舌なインタビューをありがとうございました。最後にコマーシャルです。青空大学学生募集開始、願書をインターネットで受け付けています。「aozora-university.ac.jp」です。よろしくお願いします（拍手）。

**林客員准教授** ありがとうございます。素晴らしいですね。ボーダレスな大学になっていて、学長も出てきて、学生の声も聞こえるということで、現実味がありました。

それではFグループにいきたいと思います。よろしくお願いします。

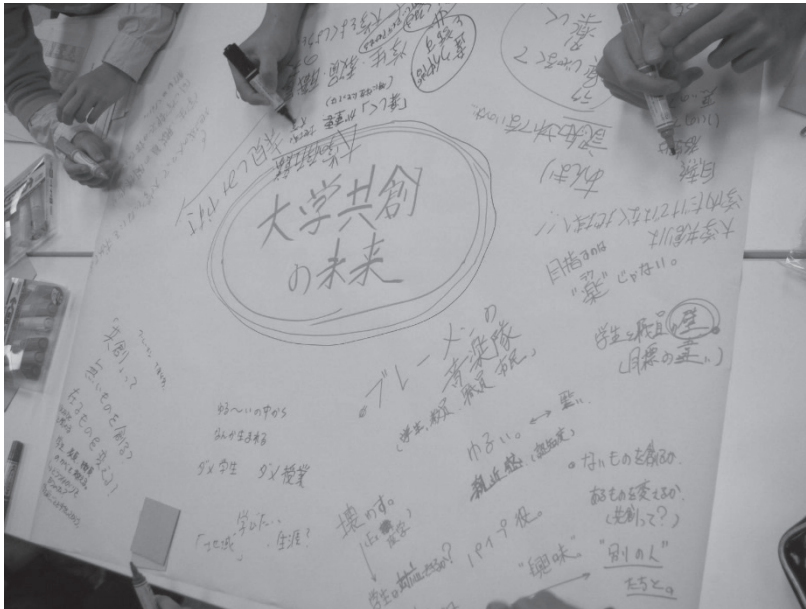
**グループF**：Fグループの発表を行います。突然ですが、「アラブの春」はご存じでしょうか。自分たちはそれにちなんで「キャンパスの春新聞」にしました。「アラブの春」と言われても、私は世界史はちんぷんかんぷんで、どんなことか分からないのですが、それぐらいすごいこと

です。

グループF:「キャンパスの春」と書いてあるのですが、学生・教員・職員、地域を恋愛図式で書いて、「キャンパスにも春が来たぞ」と捉えて「キャンパスの春新聞」にしました。

学生・教員・職員、地域には大きな壁があり、お互いに関わりたいのに関われないというもどかしさがあり、みんながみんな片思いの状態です。それが、いろいろなことをすることによって、数年後、壁が取っ払われるというのを図式化しました。学生の中には2:6:2という比率があって、やる気のある学生と誘われればやる学生とやる気のない学生です。その間にも大きな壁があって、数年後にはそういう壁が取っ払われている状態になります。結果、やらされ感のない大学共創ができていくのではないかという記事です。ありがとうございます（拍手）。

林客員准教授 ありがとうございます。BとFには共通点があったと思います。Bは塀で、Fは壁を取り上げていました。ユニバーシティなので、もう少し壁がないのが本来なのですが、そういうところが大学共創の実現の像としてボーダレスになっていくという姿があるべき姿と描かれているようで、非常によかったと思います。ありがとうございました。



## クロージング

**林客員准教授** ワールドカフェ、未来新聞づくりはいかがでしたでしょうか。最後のセッションに入っていきたいと思います。特に前半で行ったワールドカフェは、私も実際に授業で使っています。いろいろな方々と気軽にできますし、アウトプットとして未来新聞というスタイルも手軽にとることができます。それをご体感いただけて、その中で大学共創の未来について考えていけたのではないかと思います。最後に残った2グループの発表も、多くの共通点があったと思います。またここでの場、それから各大学でいろいろ考えていただければと思います。

今回は「大学共創の未来」ということで、皆さんで楽しく対話ができただけではないかと思えます。それから未来新聞づくりということで、最後に私も見て回っていたのですが、非常に熱気を帯びていて、すごく緊迫感もありました。皆さんが一生懸命取り組んでいることが伝わってきました。よかったです。そこには学生だけでなく、われわれ教職員、市民の方も一部おられますが、そういう活動の中で学びがあると思えますので、そういうことを感じていただければと思います。そこで、最後は全体のリフレクションの時間になります。

今日は所属、立場、年代を超えた方々と一緒に対話するということをしたわけですが、今日の体験を通して大学共創を考えてみて、何か気づきはあったでしょうか。今日は話題提供から「大学共創」をテーマにずっと話をしてきました。その大切さ。私のグループでも、大学共創にはこういう捉え方もあるのかと、大学共創という一つのキーワードを通していろいろなアイデアが出たと思えます。そして今回は、さらに未来、今後こうあったらいいのではないかと、いうことを話し合いました。それで何かを実感していただきましたでしょうか。

グループワークを通して、一期一会の場合もありますが、仲間との共有、またいろいろなつながりを持ってもらえればと思います。最初に書いていただいた「自己紹介シート」の裏面の「アクションシート」を出していただけますでしょうか。またフェルトペンで書いていただければと思います。記入例としては、未来に向けて、大学共創の未来に向かってでもいいかもしれませんが、明日から私は何に取り組みたいか、どのようにしていきたいか、ここは個人で、自らのアクションということで書いていただけますでしょうか。

## 〔個人作業〕

**林客員准教授** 最近、いろいろなところでリフレクションが大事だといわれています。この場を後にする際に、個人個人で今日はどんな気づきがあったかを、しっかり心に刻んでいただくことが非常に大事だと思います。

皆さん一生懸命書いていて、それだけ気づきがあったのだろうと思えます。アクションシートに刻み込んだ明日への誓いを踏まえて、いろいろなことがあると思えますが、明日からまた前へ踏み出していきましょう。

それでは、最後に閉会の挨拶に移ります。大学行政管理学会の常務理事である南山大学の三谷学務部長より閉会のご挨拶を頂きます。

## 閉会挨拶

三谷 靖司（大学行政管理学会中部・北陸地区研究会 常務理事）

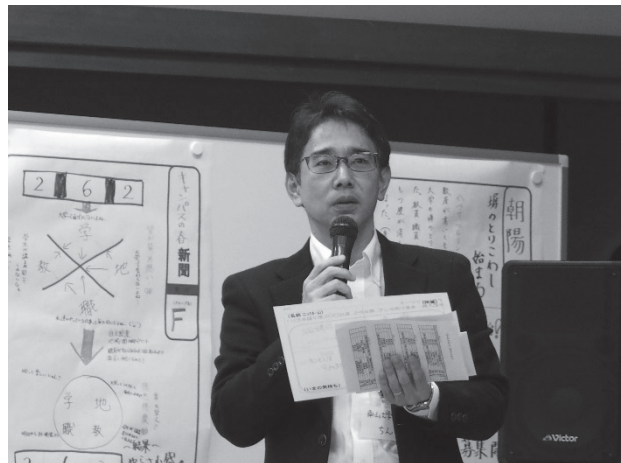
皆さん、今日はどうもお疲れさまでした。最後の方は相当ばたばたして、何が何だか分からないうちに発表に突入して、相当疲れたと思いますが、その分、今は充実感が残っているのではないかと考えています。

今日のフォーラムはどうでしたか。手元の紙にも、所属、立場、年代を超えた対話を通じて新たな気づきがあったと書いてありますが、自分もここでいろいろ話をしていて、特に今回は半分ぐらいの参加者が学生だということで、単に単位が欲しくて大学に行っているのではなく、真剣に学業に取り組んでいる学生がたくさんいる姿を見て、その話を聞いて、非常に啓発されました。自分は学務を担当していますので、アクションシートにも、そういう話を受けて思ったことを書きました。今日パワースーツも開発しましたので、それを着て、自分の大学の教学改革に取り組んでいきたいと思っています。

それから、休憩時間に小さいパンフレットを配布させていただきました。大学行政管理学会という組織があり、この中にも会員が何人かいます。ほとんど知らない方もいらっしゃるので、パンフレットを読んでいただいて、興味があったら、どういう集まりで、どういう楽しいことがあるのかを周りの会員にぜひ聞いていただいて、興味がある方はご入会いただくと助かります。全国各地で今日のような集まりを開催しています。1400名ぐらいの会員を持つ組織になっていますので、そちらの方もお願いできればと思います。

われわれ大学行政管理学会中部・北陸地区としては、このフォーラムにずっと共催という形で関与させていただいて、今年もそういう縁でおじゃまさせていただきました。どうもありがとうございました。

今日は皆さんお疲れさまでした。本当に充実感あふれる半日になったことと思います。こういうイベントが継続的に続くことを祈念して、ご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました（拍手）。




林客員准教授 三谷部長、ありがとうございました。実はワールドカフェ等、われわれ大学共創プロジェクトのメンバーが、予行演習もしながら準備をしてきましたので、ねぎらいの拍手を頂けたら幸いです（拍手）。

以上をもちまして「大学共創フォーラム 2014」を終了させていただきます。本日は本当に大勢の方々に集まっていただきまして、ありがとうございました。

2014/12/13 @金沢学生のまち市民交流館 交流ホール

学生FDスタッフAC燦presents

## 大学共創の未来への軌跡



京都産業大学 学生FDスタッフAC燦 代表：徳田 義貴  
京都産業大学 学長室（教育支援研究開発担当） 課員：雨宮 ゆり

1

## 本日のプログラム

京産大の学生FDの起源	学生FDとは？
京産大の大学共創	AC燦の特徴
職員と学生の連携	AC燦の活動
今後の展望	

2

## 本日のプログラム

京産大の学生FDの起源	学生FDとは？
京産大の大学共創	AC燦の特徴
職員と学生の連携	AC燦の活動
今後の展望	

3

## 森さん映像

4

## 本日のプログラム

京産大の学生FDの起源	学生FDとは？
京産大の大学共創	燦の特徴
職員と学生の連携	燦の活動
今後の展望	

5

## 学生FDとは？

FD=Faculty Development



授業改善、教育改善

6

## 学生FDとは？

授業や教育の改善に関心を持つ

**学生が主体的**に取り組む活動であり

大学側との連携を求めるもの

7

## 学生FDとは？

- ・全国に広まっている
- ・大学によって様々な特徴



8

## 本日のプログラム

京産大の学生FDの起源

学生FDとは？

京産大の大学共創

AC燦の特徴

職員と学生の連携

AC燦の活動

今後の展望

9

## 林さん映像

10

## 本日のプログラム

京産大の学生FDの起源

学生FDとは？

京産大の大学共創

AC燦の特徴

職員と学生の連携

AC燦の活動

今後の展望

11

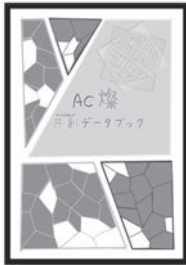
## AC燦の特徴 学生主体



12

### AC燦の特徴

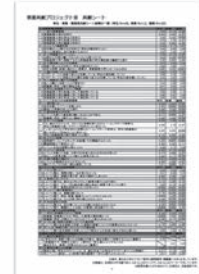
デザイン力の高さ



Wordで作成

### AC燦の特徴

分析力の高さ



### AC燦の特徴

京産大の強み

#### ワンキャンパス（8学部）

- ・多彩なメンバーが集結
- ・参加者を集めやすい



#### F工房

- ・ファシリテーション能力の向上

### 本日のプログラム

京産大の学生FDの起源

学生FDとは？

京産大の大学共創

AC燦の特徴

職員と学生の連携

AC燦の活動

今後の展望

### 山内&中沢さん映像

### 職員との連携



- ・活動場所の提供
- ・ミーティングへの参加

時に熱く（暑苦しく）語り合う！



## 本日のプログラム

京産大の学生FDの起源	学生FDとは？
京産大の大学共創	AC燦の特徴
職員と学生の連携	AC燦の活動
今後の展望	

19



## 「京産共創」プロジェクト

### 特徴

過去 **3回** に渡って実施

**「学生」「教員」「職員」** が集まる貴重な場

1つのテーマで行う **グループディスカッション**

21

## 「京産共創」プロジェクト


### 目的

**学生・教員・職員の三者が**  
互いの立場を超えて  
意見交換ができる場を提供すること

22

## 「京産共創」プロジェクト

### タイトル



I：～京都産業大学をどう創っていくか～  
 II：～京都産業大学をどう創っていくか～  
 III：～僕らが創る新たな絆～

23

## 「京産共創」プロジェクト

詳しくは  
**データブック**をご確認ください




大学HPから  
印刷OK!



京都産業大学HP 学生FDスタッフ「燦(SAN)」  
<https://www.kyoto-su.ac.jp/outline/approach/excellence/kyouiku/fdstaff.html>

24

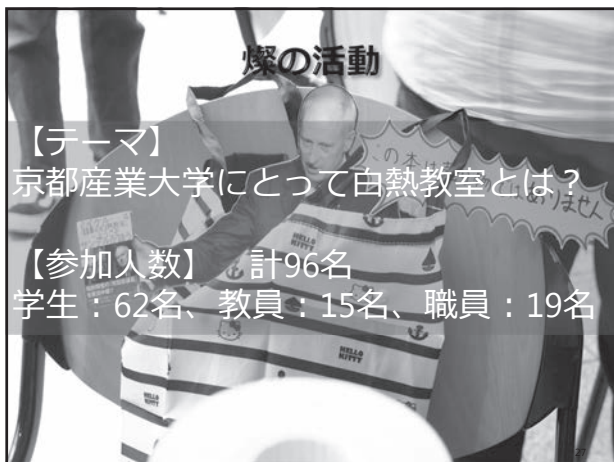
### 「京産共創」プロジェクト

参加者数

	学生	教員	職員	合計
I	58	17	29	104
II	59	10	20	89
III	90	22	27	140

IIIで学生と教員の参加者数が飛躍的に増加！

25



### AC燦の活動

参加者の満足度が高く  
交流が盛んに行われていた

	学生	教員	職員
II イベント全体での共感度調査			
II-I 場を楽しむ	4.36	4.42	4.58
19) 全体を通してイベントを楽しめた	4.33	4.50	4.53
22) 参加した甲斐があったと思う	4.40	4.33	4.63
II-II 参加者同士の交流	4.32	4.43	4.58
18) イベントを通じて参加者と親しくなることができた	4.17	4.50	4.37
31) 教職員(学生)と話すよい機会だった	4.48	4.36	4.80

「共創データブックII」(2014)より

28

### AC燦の活動

これらのイベントを通して

AC燦への理解・関心が高まっている

学内に**大学共創**が少しずつ広まっている

29

### AC燦の活動

広まってきた成果として

グローバル・サイエンス・セミナー

全学FD/SD研修会

の開催に協力

30

## AC燦の活動の広まり

グローバル・サイエンス・セミナー


「京産共創」プロジェクトⅢに参加した教員からの依頼

学生は「グローバル」について  
どう思っているの？

↓

学部を超えて、学教職が集結！

教育プログラムを作る  
過程で大きく貢献！




31

## AC燦の活動の広まり

全学FD/SD研修会

主催の「障がい学生支援推進団体あすか」にAC燦が協力

**テーマ「ユニバーサルデザイン講義とは」**



- ・学生自ら登壇者に依頼
- ・プログラムも全編学生考案

学生が教職員の研修の  
場を作った！

32

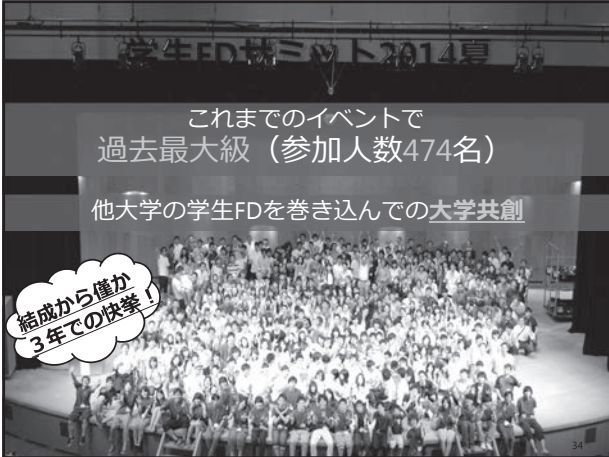
## 燦の活動の学外への広まり

これまでのイベントの集大成

学生FDサミット2014夏  
—あなたがキツク未来—




33



これまでのイベントで  
過去最大級（参加人数474名）

他大学の学生FDを巻き込んでの**大学共創**

結成から僅か  
3年での快挙！

34

## 本日のプログラム


京産大の学生FDの起源	学生FDとは？
京産大の大学共創	AC燦の特徴
職員と学生の連携	AC燦の活動

今後の展望

35

## 今後の展望

学生FD活動は、  
テーマが堅い、難しい、よくわからない



36

## 今後の展望

活動理念

「アホなことを真剣に、  
マジメなことを楽しく。」

37

## 大学共創の未来について（映像）

38

大学共創は

楽しく面白くなかったら

やる意味がない！



39

ご静聴ありがとうございました！

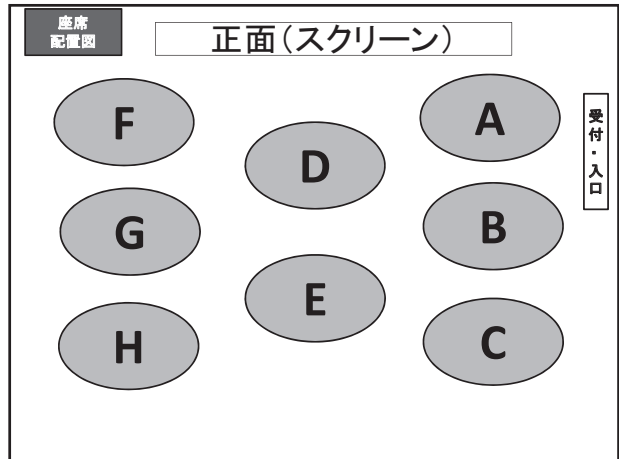
「京産共創」プロジェクトⅢ  
～一人ひとりが創る新たな絆～

by 学生FDスタッフAC燦

40

# 大学共創フォーラム2014

オリエンテーション資料  
2014年12月13日(土)13:00~17:00  
@金沢学生のまち市民交流館



## 大学共創フォーラム2014

みんなで大学共創について語ろう！  
～Future for University Co-creation～

日時: 12月13日(土)  
13:00~17:00  
(受付開始 12:30)

- ### 当日の流れ(全体)
- ・ 開会挨拶・趣旨説明-13:00~13:10(10分)
  - ・ 話題提供-13:10~13:50(40分)
  - ・ グループワーク①-13:50~15:30(100分)
    - ・ オリエンテーション-13:50~14:10(20分:自己紹介10分含)
    - ・ ラウンド1-14:10~14:30(20分)
    - ・ 移動(1分)
    - ・ ラウンド2-14:31~14:51(20分)
    - ・ 移動(1分)
    - ・ ラウンド3-14:52~15:12(20分)
    - ・ 振り返り-15:12~15:17(5分)
    - ・ 休憩-15:17~15:30(13分)
  - ・ グループワーク②-15:30~16:10(40分)
    - ・ 未来新聞作成(40分)
  - ・ 全体発表・総括-16:10~16:50(40分)
    - ・ プレゼンテーション16:10~16:30(20分)
    - ・ 全体共有16:30~16:50(20分)
  - ・ クロージング・閉会挨拶16:50~17:00(10分)

## 趣 旨

教員・職員・学生によって形成される大学組織では、各構成員がつながりあいながら大学運営・キャンパスライフの日常が営まれています。

過去4年間の大学共創プロジェクトの企画実践を通して、改めて、大学における共創とは何なのかについて、参加者みなんで対話し、具体的なイメージや今後の方向性について共有したいと思います。

### 大学共創宣言

大学共創プロジェクト  
金沢大学大学教育開発・支援センター  
富山大学大学教育実践センター  
福井大学高等教育推進センター  
北陸先端科学技術大学院大学大学院教育イニシアティブセンター

大学(大学教育)は、知のオアシスであり、社会の羅針盤であってほしい。大学(大学教育)が秘めるポテンシャルは計り知れず、そのポテンシャルを感じ取るには、教員・職員・学生(教職学)、さらには市民が一緒になって議論する「共創の場」が必要ではないか。

我々、大学共創プロジェクトでは、共創の定義を以下のよう規定したい。

①教員・職員・学生が、協働という形式を超えて、大学教育を共に創り上げるということ。

②大学間連携により、個々の組織文化を超えて、大学教育に関する共通の課題について考え、課題解決や新たな方向性を見出していくこと。

## 内容

グループワーク①では、「ワールドカフェ」の手法を用いた対話を通して、参加者各人が「大学共創」の理解を深め、そのイメージを共有します。

グループワーク②では、大学共創の未来について「未来新聞」へと収束させていきます。参加者全員が「共に創る」ことの意義や「新しい気づき」を実感できるような内容になっています。

さあ、「共創の場」で新しい気づきを感じ、自らのエネルギーに変えよう。

## グループワーク①

# World Café in Kanazawa

## 「大学共創って何だろう？」

### 【自己紹介シート】

名前(ニックネーム)	所属
河島(ゴリさん)	●●●●大学
わくわくっ!	大学共創に感銘を受けた!
いまの気持ち	参加動機

“シートを2分程度で記入しましょう”  
 “一人1分程度で自己紹介を行いましょう”



### ～ワールドカフェとは？～

- ◆小グループで、あるテーマ(問い)に関して、席替えを何回か繰り返しながら話し合いをすることで、あたかも参加者全員と話し合っているかのような相乗効果が得られる話し合いの方法。
- ◆Juanita Brown氏とDavid Isaacs氏によって、1995年にうみだされました。



アニータ・ブラウン氏

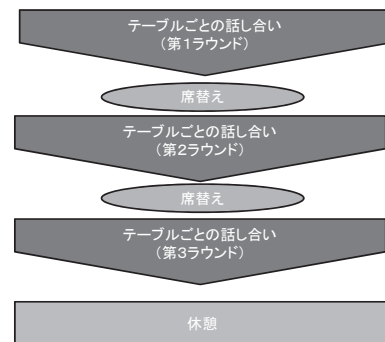


デイビッド・アイザックス氏



アイデアを輪花拡散する

### ワールド・カフェの流れ



カフェ・エチケット

◆ダイアログを楽しむ

結論を無理にまとめる必要はありません。その場に出てくる話と、仲間との対話を楽しみましょう。

◆話をよく聴く

話すばかりではなく、他の人の話によく耳を傾けてみよう。

◆否定しないで、受け止める

議論の場ではありません。多様な意見を受け入れ、それにわくわくする自分自身を楽しみましょう。

◆テーマにフォーカスする

テーマについて話をするよう心がけましょう。参加者全員がそのテーマにフォーカスすることで、よりエネルギーが高まります。

模造紙を活用しよう！

★思ったことを自由に書いてください



◎絵や図をできるだけ描く

◎模造紙に書いた言葉に関連性がある時は  
言葉と言葉を線や矢印で結ぶ



◎自分の手元だけに書かない



話の終わりは...



ラウンド①「テーマを深めよう！」

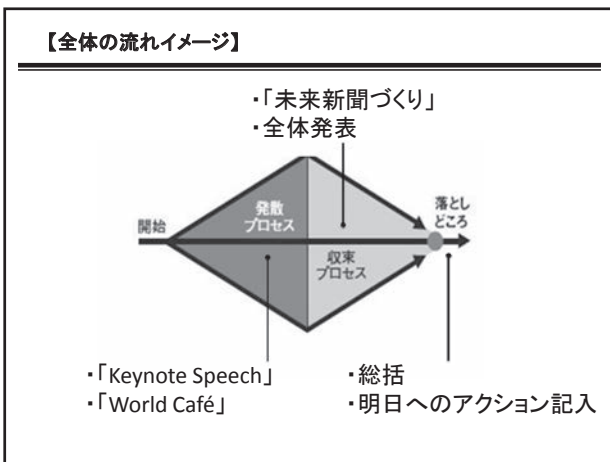
「大学共創って何だろう」  
あなたの考えやイメージを話してみよう！

ラウンド②「考えを広げよう！」

「大学共創って何だろう」  
あなたの考えやイメージを話してみよう！

ラウンド③「気づきや発見をまとめよう！」

未来に向かって、  
「大学共創」の実現を目指し、  
どんなことができる  
(どんなことをしてみたい)  
と思いますか？



グループワーク②

# 未来新聞づくり

「大学共創の未来とは？」

未来新聞をつくらう！

- ・「2020年、東京ではオリンピックが開催されていますが、●●大学では、大学共創のスピリットがどのようなかたちになって実現しているかを新聞記事の形式でまとめてみましょう」
- ・ワールドカフェで共有した素晴らしいアイデアを、具体的なイメージとして共有しましょう。
- ・綺麗に描く！ことも大事ですが、みなさんに早く情報を伝達することが重要です。
- ・さきほど話し合った内容をすべて掲載するのではなく『ここがミソ！』というポイントを絞ってください。







### 全体セッションの流れ

★ラウンド1

4つのグループが集まり、2つの島(グループA~D、E~H)を作ります。

それぞれの島において、各グループが作成した未来新聞について、2分程度、発表します。

最後に、最も良いグループを挙手にて選出してください。

★ラウンド2

各島から選出された2つのグループについて、全体発表していただきます。



### おわりに

所属・立場・年代を超えた対話を通して見えてきた新たな気づきがあったでしょうか！

大学共創の大切さとその未来、何かを実感していただけでしょうか！

- グループワークを通じた仲間との共有
- リフレクションシートに刻み込んだ明日への誓い

さあ、一歩前に踏み出してみましょ！



**THANK YOU !**



大学共創プロジェクトチーム一同

参考資料

## 大学共創の軌跡(キセキ)

—大学間連携・教職協働から教員・職員・学生そして、地域とつながる大学共創へ—

## アウトライン

- 大学間連携の強化と教職協働期
- 学生参画型への移行期
- 大学間、教員・職員・学生による大学共創期
- 地域とつながる大学共創へ

2

## 大学間連携の強化と教職協働期

1. 大学間連携の実質化と強化
  - 2009年度・2010年度の金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学との協働によるSD(Staff Development: 大学職員の職能開発)および、FD(Faculty Development: 大学教員の職能開発)の実施。
2. 教職協働の高度化
  - 北陸地区国立4大学による「大学組織力向上を目的としたプログラム開発」が北陸地区国立大学学術研究連携支援事業に採択され、教職協働の高度化がなされた。

3

## 学生参画への移行期

### アクションリサーチのステップ

1. 現状を分析し、いくつかの問題を発見する。
2. 時間や資源の制約の範囲内で解決できそうな問題を選択する。
3. 問題を分析する。
4. 問題分析に基づき、その問題の解決策としてのアクションプランを提示する。
5. アクションプランを実行する。
6. 実行した結果を分析する。
7. その分析に基づいて、次のアクションプランを提示する。
8. その問題を説明する理論的モデルを構築する。

### 問題提起

→ 教員と職員と並んで大学を構成する学生もアクションリサーチのプロジェクトメンバーに加えるべきではないのか？

↓

• 研究の進展とともに大学の構成員である学生の視点を取り込む必要性が明確になった。

4

## 大学間、教員・職員・学生による大学共創期

- 2012年と2013年に北陸地区では、初となる教員・職員・学生による大学教育について語り合う「場(大学共創フォーラム)」を創出した。
- 大学共創フォーラムの企画・運営は教職学が担い合い、フォーラムの当日参加者には、市議会議員や学校教員などの市民も参加している。

5

### 大学共創フォーラム2012

みんなで大学教育について語ろう！

「共創 Co-Creation」は、大学同士がスクラムを組み、教員・職員・学生そして、市民が共に大学教育を創っていくことなんだ。

主 催： 各次学生のまち市経立産協 交流ホール（私学連の館）  
【石川県立総合教育センター】  
〒920-0001 石川市 交流ホール（私学連の館）  
日 時： 11月20日（木）13:00～17:00  
対 象： 大学教職員、大学生、大学院生、市民  
定 員： 40名

主 催： 大学共創びびびネットワーク  
金沢大学 大学教職連携部、北陸センター、富山大学 大学教職連携センター、福井大学 大学教職連携センター、北陸先端科学技術大学院大学 学術研究連携支援センター(シニア・プランナー)、大学コンソーシアム石川  
共 催： 大学行政推進学舎中野、北陸地区研究会

### 大学共創フォーラム2013

みんなで大学教育について語ろう！  
Part 2  
—授業デザインの共創—

みんなで創った授業が、  
あしたの大学教育を  
新しくする。  
それが大学共創です。  
「教える」と「学ぶ」二つの  
視点から何が考えられて  
いるのでしょうか。

会場 金沢学生のまち市民交流館 交流ホール  
(石川県金沢市片町2-5-17 TEL 079-255-0162)  
eURL  
http://www4.city.kanazawa.lg.jp/22050/shiminkosyokusan/

日時 12月21日(土) 12:30~17:00 (受付開始 12:00)  
対象 大学教職員、大学生・大学院生、一般の方  
定員 40名

主催 大学共創プロジェクト  
金沢大学 大学教育開発・支援センター  
富山大学 大学教育支援センター  
福井大学 高等教育推進センター  
北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター  
大学コンソーシアム石川

共催 大学行政推進学会中部・北陸地区研究会

主 催 大学行政推進学会中部・北陸地区研究会  
共 催 大学行政推進学会中部・北陸地区研究会  
後 援 大学行政推進学会中部・北陸地区研究会  
協 賛 大学行政推進学会中部・北陸地区研究会

当日のスケジュール  
12:00 受付開始  
12:30 開会式・開会挨拶  
13:00 基調講演「授業デザインの共創と大学教育の未来」  
13:30 プレゼンテーション「授業デザインの共創」  
14:00 基調講演「授業デザインの共創」  
14:30 基調講演「授業デザインの共創」  
15:00 基調講演「授業デザインの共創」  
15:30 基調講演「授業デザインの共創」  
16:00 基調講演「授業デザインの共創」  
16:30 基調講演「授業デザインの共創」  
17:00 閉会式

### 大学共創プロジェクト

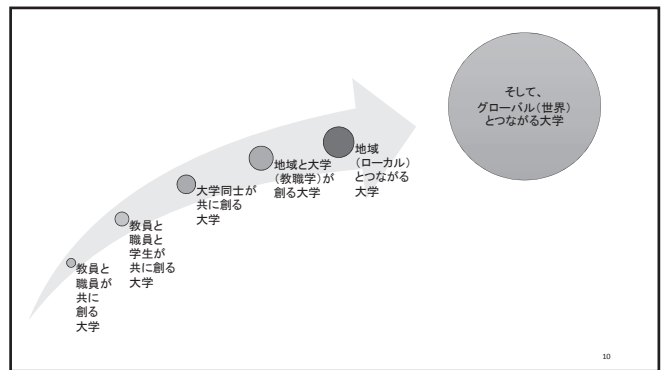
大学間連携による人材育成プログラムの共創

I 北陸地区国立4大学連携  
金沢大学、福井大学、富山大学、北陸先端科学技術大学院大学

II 大学共創フォーラム  
大学共創フォーラムでは、知識創造の  
実践を促すグループワークを行い、  
全体発表を通して共有しました。  
本年度は「みんなで授業デザインをつくらう！」  
をテーマにして、教員、職員、学生、そして、  
地域の方が熱い議論を交わしました。  
本フォーラムでは、多くの魅力的な授業と  
その計画が発表されました。

授業名	授業のテーマ	学習目標
多岐にわたる 授業実践発表	・ 授業、授業発表、授業の発表 ・ 授業、授業発表、授業の発表 ・ 授業、授業発表、授業の発表	・ 授業、授業発表、授業の発表 ・ 授業、授業発表、授業の発表 ・ 授業、授業発表、授業の発表
Easy Campus	・ 授業、授業発表、授業の発表 ・ 授業、授業発表、授業の発表 ・ 授業、授業発表、授業の発表	・ 授業、授業発表、授業の発表 ・ 授業、授業発表、授業の発表 ・ 授業、授業発表、授業の発表

III 大学をもっと楽しく、もっと実質に！  
★ 多様、複利、変化の激しい状況に  
対応するための教員、職員、学生による共創。  
★ 大学間連携を強化するための共創  
★ 「大学づくり」のための能力開発と  
新しい人材を創出。



### 大学共創宣言

大学共創プロジェクト  
金沢大学 大学教育開発・支援センター  
富山大学 大学教育支援センター  
福井大学 高等教育推進センター  
北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター

大学(大学教育)は、知のオアシスであり、社会の羅針盤であってほしい。大学(大学教育)が秘めるポテンシャルは計り知れず、そのポテンシャルを感じ取るには、教員・職員・学生(教職学)、さらに市民が一緒に議論する「共創の場」が必要ではないか。  
我々、大学共創プロジェクトでは、共創の定義を以下のように規定したい。

- ① 教員・職員・学生が、協働という形式を超えて、大学今日を共に創り上げるということ。
- ② 大学間連携により、個々の組織文化を超えて、大学教育に関する共通の課題について考え、課題解決や新たな方向性を見出していくこと。

2013年3月策定

オモテ

(名前 (ニックネーム))	(所属)
(いまの気持ち)	(参加動機)

ウラ

### アクションシート

※記入例： 未来に向かって、明日から、私は〇〇に取り組みたい！

# おまつり新聞

発行

(グループ名)

# A

## 知のパワースーツ

### 装着数 1 億人突破!

知のパワースーツが十年前の販売以来、全世界で累計1億着を突破した。日本で少子化が進む中、日本の共創プログラムが開発したこのスーツは、世界の人々とのつながりを瞬時に可能とし、地球規模の学生たちのパワーアップに大いに貢献している。

107-up  
量でなく  
品質

学生をギラギラさせるスーツ

大学生へ!  
無料駐車場  
提供中  
(株)共創工学

一億着突破  
セール開催  
最大70%OFF  
送料無料

### 市民への開放

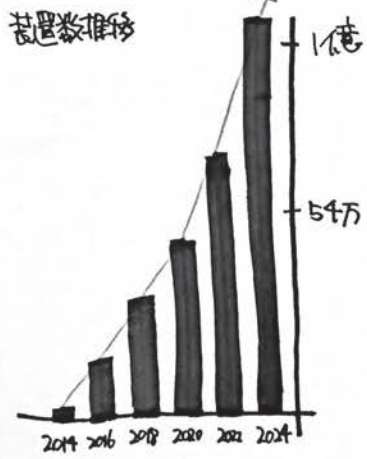
1人1人の力を  
社会が求めます

### 単位だけじゃない

出力は人



学生が多く  
市民の  
かがわりの  
中で成長



二〇一四年十二月十三日の金沢で開催されたフォーラムで議論された具体的な意見を元に具現化された形となった。

# 朝陽新聞

発行

(グループ名)

# B

## 塙のとりこわし 始まる

かつて、ベルリンの壁とも呼ばれ、敷居が高いとも言われてきた大学の塙のとりこわしが始まった。教員・職員・学生・市民のもつ壁が消え去る第一歩となった。(青空大学学長インタビュー、二面)

## ユニバーシティ ライセンス 発行開始!

いつでもどこでも誰でも好きな大学へ行き、学び、教えることのできるライセンスの発行が始まった。これにより、全てのの人に学びが広がることとなった。(関連インタビュー、三面)

## 青空大学 学生募集開始



書類・インターネット出願

Web. twitterでご案内 [aozora-univ.ac.jp](http://aozora-univ.ac.jp)

藤田・竹内・徳田・後藤・杉森・長谷川

# 幸せの家族新聞

発行

(グループ名)

C

以前の家族は

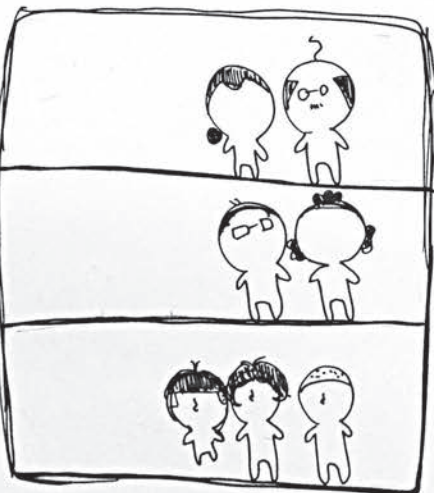
- 別の階に住きた!
- 話をすることもなかった...
- 息子・娘は週一しか帰らない
- 夫婦仲悪
- 日取悪
- 租父母がうるさい

そして現在?

- いつも家族団らん
- 外からも来客
- 会話もたくさん!!
- 笑顔が増えない!!
- 一緒にご飯を食べてる!!!
- おじい夫婦♡
- お母さんお父さん♡

## その秘訣とは?!!??

- 家族でのイベント!!!
- 平屋に117キ-4
- お互いを認める・支える



2020年10月1日発行

# 斬新! 学祭がキャンパスを飛び出す

## 北 國 新聞

発行

(グループ名)

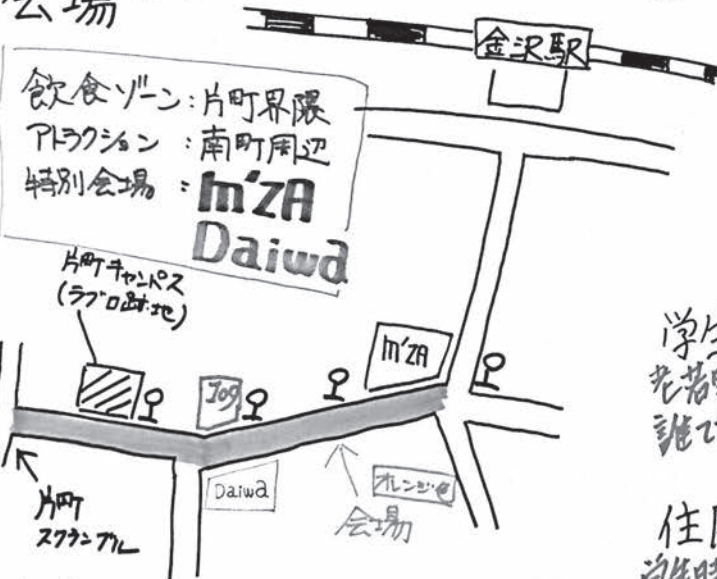
# D

世界初の商店街キャンパス

金沢市片町にキャンパスを構える

福井きときと大学金沢キニスほ、今月九日、街全体を学園祭会場とする商店街キニス。構想を正式に発表した。これは、昨年から噂さかっていたプロジェクトで、学生と商店街の人々が共同で学園祭を計画立案したものだ。従来であればキャンパスで行われるが、地域の人々と共に創り上げるこの試みは世界でも初めて。会場は片町キャンパスから武蔵ヶ辻までで行われる。

会場イメージ



北鉄バスがシャトルバスとして利用可能

学生も意欲満々!! **学生参画**  
老若男女、LGBTも外国の方も参加すれば誰でもきときと大学の学生です!  
(経営学部3年 河島亨)

住民も大歓迎!! **市民参画**  
学生時代は、在学時で参加して下さい!  
(サロン林: 店長)

大学評論家  
雨宮義貴(KS大)  
が絶賛!!

著名な大学評論家  
雨宮義貴氏はこの取組を次のように高く評価しているようである、

「これは全く新しい大学共創の形だ。アメリカのサンチャン氏も驚異的だと言っているらしい。何がすごいってそれが分からないうところが一番すごい!! いやホンマの話!!」  
(大学問題担当 徳田ゆり)





# 広がりをもせる 大学共創の輪

緑の  
ためき  
新聞

発行

(グループ名)

E

フレンドリーがカギ

固定概念をぶっこわす

学生のナウ白泉が

ためき学長と

食堂のくまさんとの

会話を

楽しんだ。



域学連携  
本格化

域学連携  
本格化

学生、教員、

職員の協力を

こえ、市民や

海外の人々との

交流をおこなった。

目よ人会

学生だけで

おこなっていた集

人会であったが、

教員・職員への

交流の場にもな

RM 大学

-Teaching

なくなりました。



Learning



5種目10名



金銀は

KG 総取り

KG 大学  
東京五輪  
出場

# キャンパスの春新聞

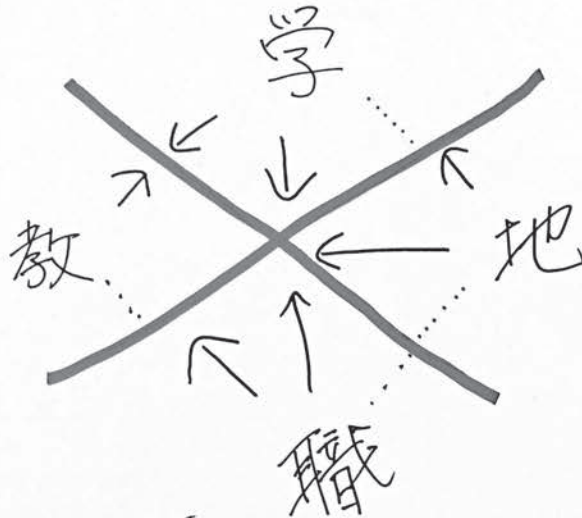
発行

(グループ名)

# F

2 6 2

大学で面白いよね...



皆が皆、片思い...♡

大学で変わらないうね...

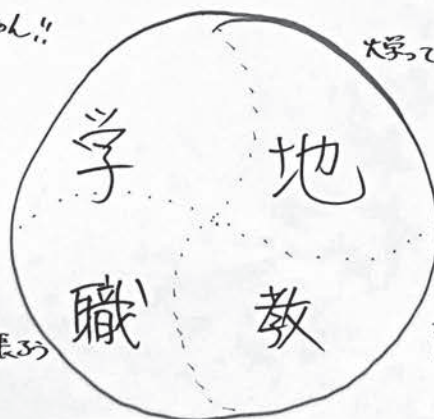
学生師い...

学生が講義聞きて  
くれないなあ...

私達のやっている仕事で毎日同じよね... (´ω`)

自主授業  
 地域に開かれたイベント  
 職員が今年初めて話し合えた!!  
 教員と仲良くなった!!

大学で楽しいじゃん!!



大学以外と面白いよね!

想  
思  
想  
愛

皆、大学入!!

明日から頑張張る

学生が講義  
来てくれる  
には

結果

2 6 2

やらさ小感の  
ない大学共創

# 楽しく新聞

発行

(グループ名)

# G

学生FORサミットが石川開催

石川でサミットが開催され、石川の全大学の学生FOR団体が行った。全大学ではすでに学生FORが盛んに行われており、石川でも学生FORの開催が予定されている。石川でも学生FORの開催が予定されている。

## 第25回UDトーク開催

7月21日第25回UDトークが、富山市のオーバードホールで開催された。UDトークは富山大学の学生団体「大学共創」が毎年開催している。今年も約200名が参加し、大規模なUDトークとなった。参加者は各校にあり、学生や教職員だけでなく市民の意見も取り入れられた。一般の方も参加した。

大学共創フォーラム  
2035



定員: 500名.

# YNU

横浜みなとみらい  
大学開講!  
学びのみなとみらいへ?

# Sweet Food

See 2035 開催!  
2035年9月21~23日 申込中!



七月二日教室が開講。自らの経験から、石川大学の学生と教職員が参加し、話し合いが行われた。恒例の白熱討論の部もあり、学生と教職員の意見交換が行われた。

# 白熱討論!

全国で二番目の学生参加率を誇る。今年も多くの学生が参加し、活発な議論が行われた。石川大学の学生も積極的に参加した。

# 2020年の共創図

## 学生による教育企画

教員 + 職員 + 外部ステークホルダー



文科省・学長・執行部・事務局



学生も正式委員である委員会提案



教育カリキュラム実践



共創X=ハブ (学生・教員・職員・市民代表)

### SEIの組織図

学生代表



教員・職員

企業・OB・文科省  
による教育成果の  
評価



+ 外部ステークホルダー

S  
E  
I  
新聞

発行

(グループ名)

H

横山、髙右近、西山、栗藤、山田、吉田



## 大学共創フォーラム2014アンケート結果

日時：平成26年12月13日（土）13：00～17：00

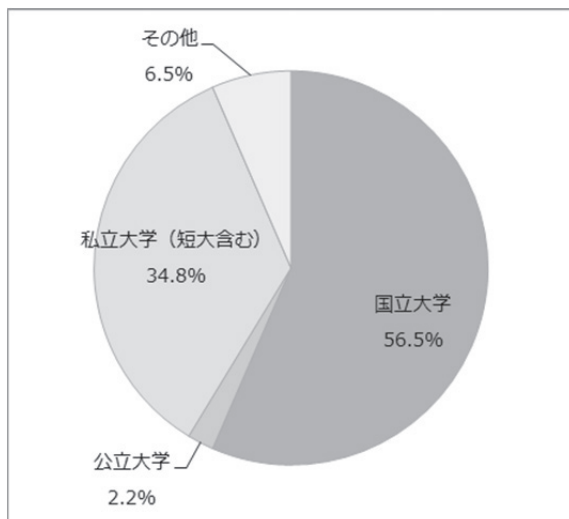
場所：金沢学生のまち市民交流館 交流ホール（和室畳の間）

出席者数：51名

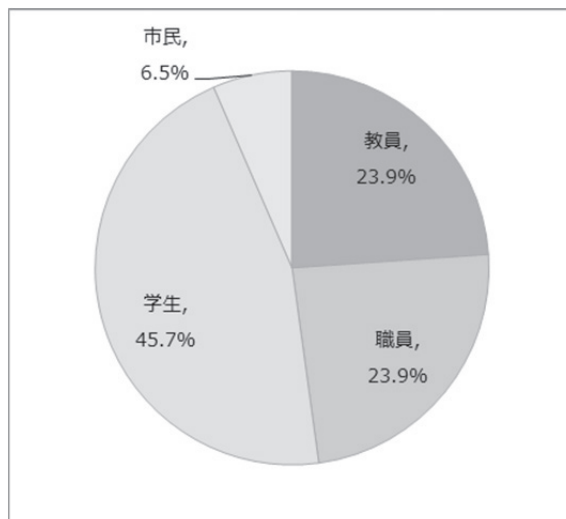
回答者数：46名（回答率：90.2%）

### 1. 参加者ご自身について

(1) 所属



(2) 身分

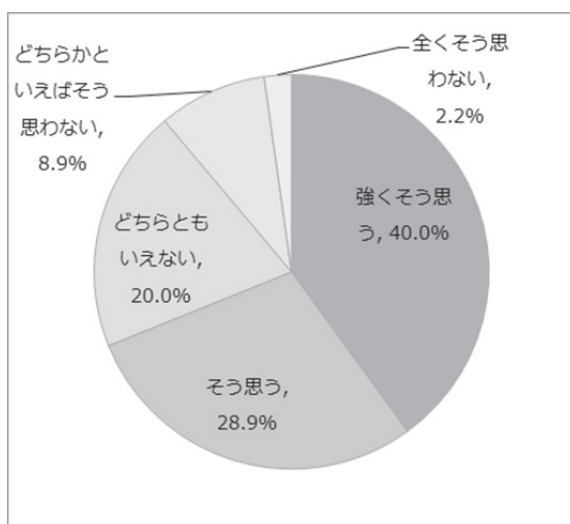


これより先の設問における回答番号の説明は次のとおり。

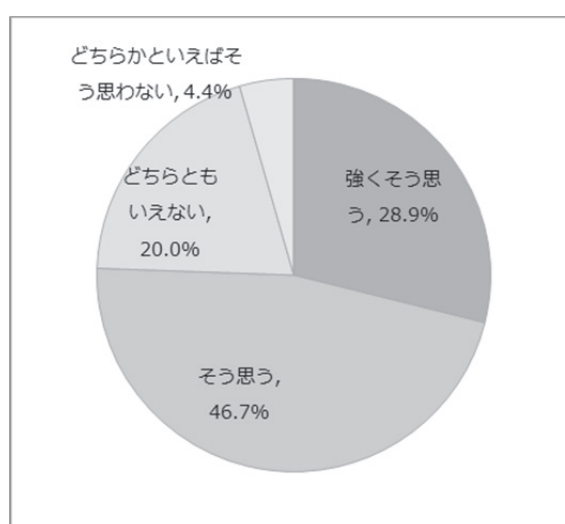
- |             |                  |
|-------------|------------------|
| 5 強くそう思う    | 4 そう思う           |
| 3 どちらともいえない | 2 どちらかといえばそう思わない |
| 1 全くそう思わない  |                  |

### 2. フォーラム参加について

(1) フォーラムの趣旨や内容についてある程度知った上で参加した

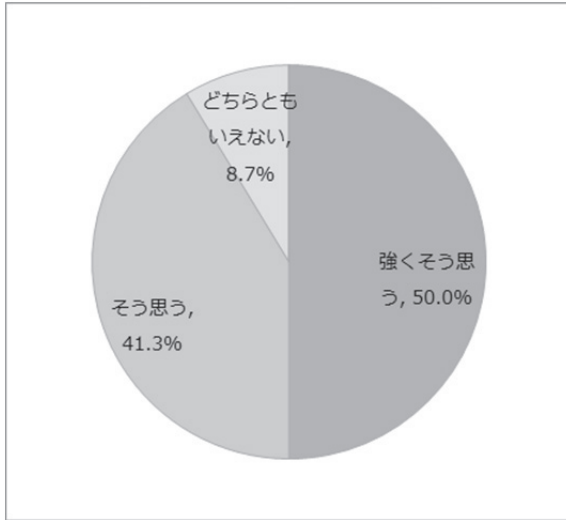


(2) 自分自身で必要性を感じて参加した

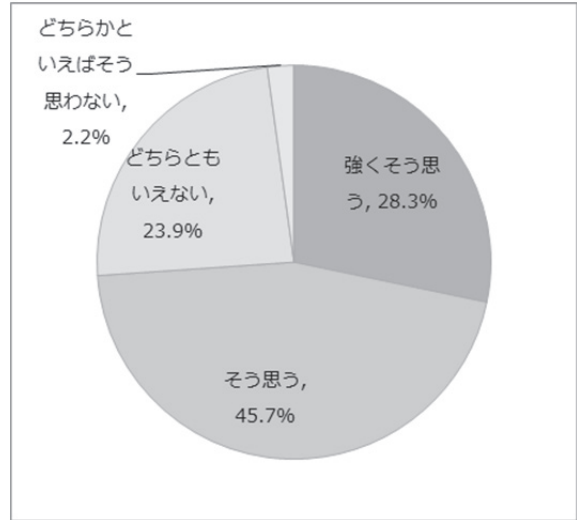


### 3. フォーラムについて

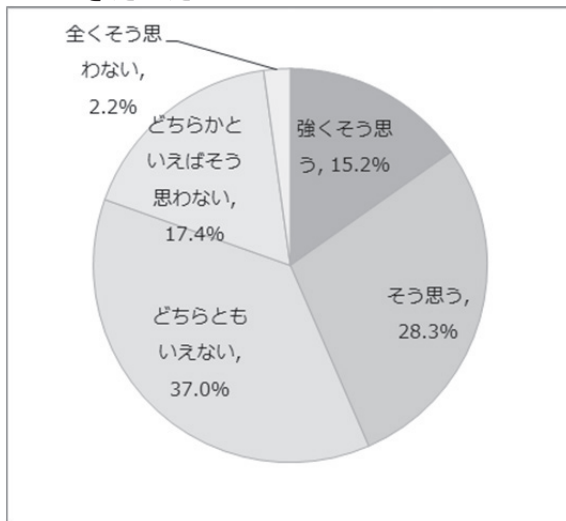
(1) 大学共創というコンセプトは大切である



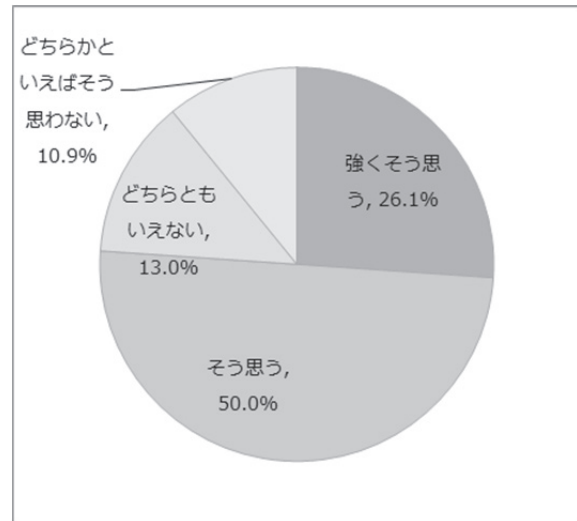
(2) フォーラムの内容はわかりやすく十分に理解できた



(3) フォーラムの時間はちょうど良い長さだった

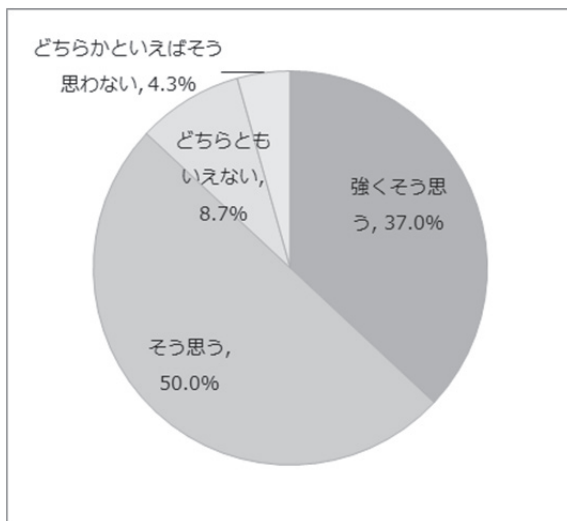


(4) フォーラム会場は快適な環境だった

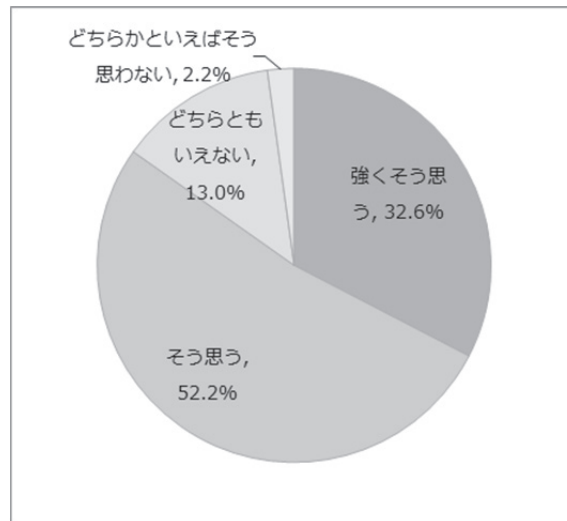


#### 4. フォーラム全体について

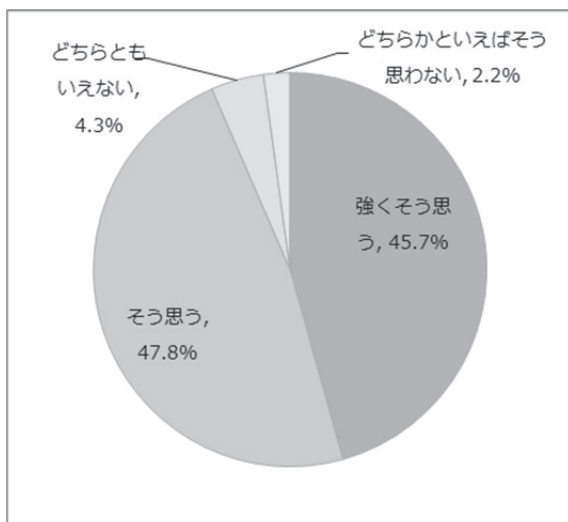
(1) 全体的に満足できるものだった



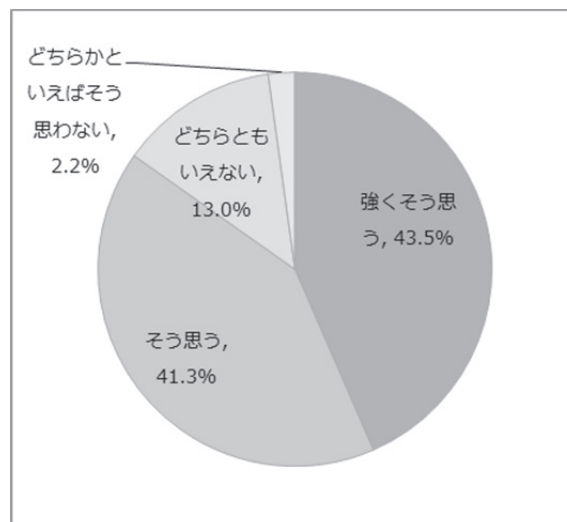
(2) 今日の大学教育の現状と課題等について理解を深めることができた



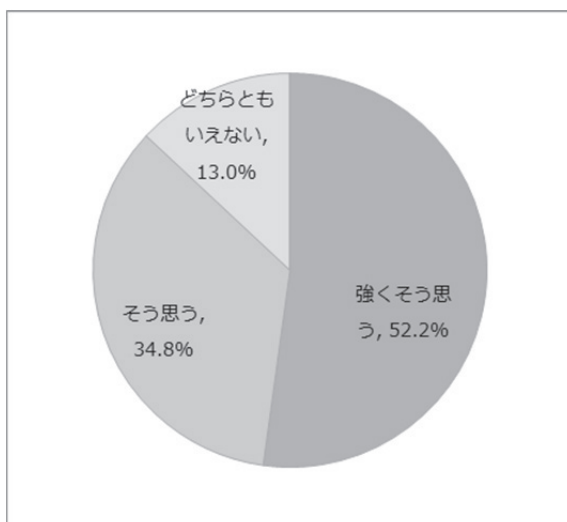
(3) グループワークを通して新しい気づきがあった



(4) 大学共創を通して、大学教育がより良くなると思う



(5) 今後もこのようなセミナーを継続していくべきだと思う





# IV

---

おわりに



# 大学共創の宣言文

## 大学共創プロジェクト

金沢大学大学教育開発・支援センター

富山大学大学教育支援センター

福井大学高等教育推進センター

北陸先端科学技術大学院大学大学院教育イニシアティブセンター

大学（大学教育）は、知のオアシスであり、社会の羅針盤であってほしい。大学（大学教育）が秘めるポテンシャルは計り知れず、そのポテンシャルを感じ取るには、教員・職員・学生（教職学）、さらには市民が一緒になって議論する「共創の場」が必要ではないか。

我々、大学共創プロジェクトでは、共創の定義を以下のよう  
に規定したい。

- ①教員・職員・学生が、協働という形式を超えて、大学教育を共に創り上げるということ。
- ②大学間連携により、個々の組織文化を超えて、大学教育に関する共通の課題について考え、課題解決や新たな方向性を見出していくこと。

(2013 年 3 月策定)

## 編集後記

はじめに、大学共創プロジェクトのメンバーと関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。また、御協力頂いた関係者の方々に深く感謝申し上げます。大学共創フォーラムの開催にあたっては、御参加頂いた教員、職員、学生、そして市民の方々の建設的な参画がフォーラムを成功に導いたのであると確信しております。

私は、これまで学生として本プロジェクトに参画させて頂きました。本年度は、北陸先端科学技術大学院大学の修了者として、また、学生とは立場を異にしての参画を経験することができ、より多様な視点で大学共創を再び考える良いきっかけとなりました。本年度の取り組みの特徴は、大学教育を様々な視点・立場で再考することにあつたのではないかと感じています。それぞれの視点・立場、また場所で新たな大学共創を展開しようというエネルギーも感じることができ、さらなる可能性を秘めたプロジェクトであるといえるでしょう。末筆ながら、大学共創プロジェクトのさらなる発展を祈念し、編集後記とさせて頂きます。

北陸先端科学技術大学院大学

知識科学研究科 知識科学専攻 博士前期課程（修了生）

河島 広幸（研究協力者）



<編者紹介> 林 透 (はやし とおる)

山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授

北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター客員准教授

金沢大学 大学教育開発・支援センター客員研究員

(経歴)

1995年 京都大学大学院文学研究科国語学国文学専攻修士課程修了。1996年 金沢大学庶務部庶務課に採用となり、2004年 北陸先端科学技術大学院大学総務課に異動し、2010年 北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター教員となり、2013年より現職。職務の傍ら、2007年 桜美林大学大学院国際学研究科大学アドミニストレーション専攻修士課程(通信教育課程)修了、2010年 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻(高等教育マネジメント分野)博士後期課程 単位取得満期退学、2011年 博士(教育)(名古屋大学)を取得。

専門分野は、高等教育論、大学組織論、キャリア開発論。

北陸地区国立4大学による大学共創プロジェクトの企画提案者。

<編者紹介> 河島 広幸 (かわしま ひろゆき)

山口大学 大学教育機構 大学教育センター助教(特命)

(経歴)

2002年から米国カリフォルニア州に留学し、アメリカ史と広告を専攻。2012年 創価大学法学部卒業。2014年 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 知識科学専攻(社会知識領域)修了。2014年11月より現職。創価大学では、学部生代表として大学運営に参画、大学院進学後は、地域振興活動、北陸地区国立4大学による大学共創プロジェクトに参画。

修士学位論文「学生参画型大学運営のナレッジマネジメントー創価大学の事例研究ー」。

TESK ライブラリー 10

『大学共創プロジェクト2014 報告書』

2015年3月27日 発行

編者 林 透・河島 広幸

企画 金沢大学 大学教育開発・支援センター

富山大学 大学教育支援センター

福井大学 高等教育推進センター

北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター

発行者 林 透

発行所 金沢大学 大学教育開発・支援センター

〒920-1192 石川県金沢市角間町

電話 076-264-5837

FAX 076-234-4172

© Kanazawa University Research Center for Higher Education





Tertiary

Student

Support

Education

Kanazawa University

Evaluation